

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2025年 3-4月

「神の民のための賜物」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

はじめに

「キリストに学ぶ経験」

3

朝のマナ

「神の民のための賜物」

4

Gifts for God's People

力を得るための食事

「ネギだれキャベツ」

68

レシピ

お話コーナー

「最初のけんか(Ⅰ)」

70

聖書物語

### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1  
電話：0494-22-0465

### 【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21  
電話：0980-55-8136

発行日 2025年2月2日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス [www.4angels.jp](http://www.4angels.jp)

メール [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)

Printed in Japan

## キリストに学ぶ経験

使徒たちはイエスの家族であった。イエスが歩いてガリラヤを旅行されるとき、彼らはイエスについてまわった。…イエスの日ごとの教えから、彼らは、人類の向上のためにどのように働いたらよいかを学んだ。イエスがまわりに集まったおびただしい群衆に奉仕されるとき、弟子たちはそばにつきそって、イエスの言いつけを行い、そのほねおりを軽くしようとつとめた。…彼らは興味を示している聴衆を見守り、その人たちに聖書を説明し、彼らの霊的な利益のためにいろいろな方法で働いた。彼らはイエスから学んだことを教え、毎日豊かな経験を積んでいた。しかし彼らはまたひとりで働く経験も必要だった。彼らはまだもっと多くの教訓と大きな忍耐と思いやりが必要だった。いま、救い主が親しくいつしょにおられて、…彼らのまちがいを直してくださることができる間に、救い主は、彼らをご自分の代表者として送り出された。…

弟子たちは、最初の伝道旅行では、「イスラエルの家の失われた羊のところ」にだけ行くことになっていた(マタイ 10:6)。もしその時、異邦人やサマリア人に福音を説いていたら、彼らはユダヤ人に対する影響力を失ったであろう。彼らはパリサイ人の偏見をひき起して、論争にまきこまれ、そのために働きの初めから落胆したであろう。使徒たちでさえ、福音はすべての国々に伝えられるのだということをなかなか理解しなかった。この事実を彼らが自らつかむことができるまでは、異邦人のために働く準備ができていなかった。もしユダヤ人が福音を受け入れたら、神は彼らを異邦人への使者にしようと考えておられた。…

キリストご自身は、真理のみことばをひとこともかくさず、いつでも愛をもってそれをお語りになった。イエスは人々とのまじわりに、最大の機知と思いやりのある親切な注意とを働かされた。…主は、人間の弱さを非難されなかった。…

キリストのしもべたちは、生れつきの心が命じるままに行動しない。彼らは、挑発されて、自我が頭をもたげ、不似合いなことば、枯れしほむ草木をうるおす露や小雨のようなことばをはきちらすことがないように、神と密接にまじわる必要がある。…彼らは、キリストの美しさに目をそそぐ。その時彼らは、天来の機知とやさしさをもって福音を示すことができる。…神と、神がおつかわしになったイエス・キリストとを知るために日々熱心に努力するときに、魂には力と能率とが与えられる。…

キリストを告白したい者は、自分のうちにキリストに住んでいただかねばならない。…弟子たちは、教理について雄弁に語ることも、キリストご自身のみことばをくりかえすこともできたかもしれない。しかし、もしキリストのような柔和と愛とをもっていなかったら、彼らは、キリストを告白していることにならなかった。…(各時代の希望上巻 78-92)

だれでもみな、神のみこころを知るために、個人的な経験をする必要がある。われわれは、神が心に語られるのを個人的にきかねばならない。(各時代の希望上巻 101)

# 神の民のための賜物

*Gifts for God's People*



3-4月

3月 真理の賜物

4月 使徒職

## きよらかで正直な統治

「主は岩であって、そのみわざは全く、その道はみな正しい。主は真実なる神であって、偽りなく、義であって、正である。」(申命記 32:4)

創造の力が現わされているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。神の統治は、すべての造られたものへ、豊かな祝福を与えることを意味する。詩篇記者は言っている。

「あなたの手は強く、あなたの右の手は高く、義と公平はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます」(詩篇 89:13,14)。(人類のあけぼの上巻 1, 2)

天において支配なさるかたは、初めから終わりまでごらんになるかたである。そのかたの前には、過去と未来の神秘が同じように展開されている。彼は、罪がもたらした不幸と暗黒と破滅のかなたに、神ご自身の愛と祝福のみこころが達成されるのをごらんになる。「雲と暗やみとはそのまわりに」あるけれども、「義と正とはそのみくらの基である」(詩篇 97:2)。そして宇宙の住民は、忠実なもの、不忠実なものと共に、やがて、このことを理解するときが来る。(人類のあけぼの上巻 16)

わたしたちの猶予の期間は世界中の金銀すべてよりも、わたしたちにとって価値がある。人には二度目の試みが与えられている。しかし、わたしたちが神の是認できる品性を形作る機会をもう一度与えていただくためには、天は無限の代価を支払ったのであった。キリストはご自分の神性を人性と結びつけられた。このお方は無限と有限の特質を所有しておられた。このお方ご自身の中に、あらゆる卓越さが宿っている。このお方の犠牲は、罪の奴隷から解放するわたしたちのあがない代である。このお方の贖いによってわたしたちはこのお方と共にそのみ座に座り、その栄光にあずかるのである。それなのに、これほどの可能性を目の前にして、わたしたちは天の賜物を感謝することもできない者であることを表すのであろうか。キリストの恵みを受けた者として、わたしたちは恐れおののいて自分の救の達成に努めることによって、自分の分を果たさないものであろうか。わたしたちのうちに働きかけて、その願いをおこさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされることだからである。人が働き、神が働かれる。しかし神は人の協力なしには何もすることがおできにならない。(ビュ・アンド・ヘルト 1898年7月23日)

3月2日

## 完全で正直な律法

「あなたの義はとこしえに正しく、あなたのおきてはまことです。」(詩篇 119:142)

神は人に完全な律法をお与えになった。(ビュー・アソド・ハルド 1896年9月15日)

神は全知、全能、不変であられ、つねにまっすぐな進路を進まれる。その律法は真理、すなわち変わらない永遠の真理であり、その教訓はこのお方の属性と一致している。しかし、サタンはそれらを偽の光の中で示しゆがめることによって、人に律法制定者であるお方について好ましくない印象を与えようとしている。はじめから終わりまで彼の反逆を通じて、彼は神を不正な暴君として表そうとしてきたのである。

はじめに人を神から引き離すことがサタンの目的であった。そして彼は各時代においてこの目的を実行し、人の子らの中で絶えず働き、あらゆる階級の人々を惑わしている。彼はエデンで聖なる夫婦を欺くために用いたのと同じ欺きの方法、同じ論法をそれに続くすべての時代で用いている。働きにおける彼の計画はつねに欺きの計画である。ときには彼は敬虔、純潔、聖潔の衣を身に着ける。そして、しばしば光の天使に変身する。彼は人々が表面下を見通すことも、彼の本当の目的を識別することもできないように、彼らの目をくらませてきた。アダムの不従順の結果、人間はみな律法の違反者であり、罪の下に売られている。悔い改め、改心しないかぎり、人は律法の束縛の下に在るのであり、サタンに仕え、敵の欺きに陥り、エホバの戒めに反する証をしているのである。しかし律法の要求に完全に従うことによって、人は義認される。そのような服従は、キリストを信じる信仰によってのみ可能である。人は律法が霊的なものであることを理解し、罪の探知機として律法の力を悟るかもしれないが、自分たちのために備えられた贖罪を受け入れない限り、すなわち、わたしたちの贖罪(Atonement)であられるキリスト、つまり神と一つにしてくださいるお方(At-one-ment)の救済的な犠牲による贖罪を受け入れないかぎりは、まったくサタンの力と欺瞞に立ち向かうことはできない。

キリストを信じ、その戒めに従う人々は神の律法の奴隷ではない。信じ服従する人々にとって神の律法は奴隷の律法ではなく、自由の律法である。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1902年7月23日)

## 純粹で完璧な戒め

「しかし主よ、あなたは近くいらせられます。あなたのもろもろの戒めはまことです。」(詩篇 119:151)

神は二枚の石の板にご自分の戒めをご自身の指でお書きになった。これらの板は人の保管に任せられず、契約の箱の中に収められた。そしてすべての人の判決が決定する大いなる日に、戒めが刻まれたこれらの板は、全世界が見て、理解できるように設置される。それらに反対する証人は、何も言えなくなる。……この時代のための純粹な真理は生活の中に改革を要求する。(原稿リ-ス 19 卷 265,266)

主はご自分の教会が人間の戒めを受け入れるのではなく、ご自分の律法だけを認めるようにと計画なされた。純粹で混ぜもののない真理が世に宣布されるようにと計画された。自己否定と十字架を負うことが神の子らの特徴づけているべきであった。彼らはキリストの品性を世に表し、世の前に永遠の世界を表し続けるべきであった。なぜなら、神の統治の支配下に来ることによって発達させられるべき精神と品性が、彼らの間で見出されるべきだからである。彼らはこの世の君主らがつくりだすものより崇高な律法に従順であるべきであり、諸王が命ずることのできる権力よりもっと偉大な権力に従順をお捧げすべきであった。

全世界が神の保護の下にあり、み使いがそのあらゆる場所で奉仕をするよう任命されている間、教会は神の特別の愛と保護の対象である。このお方は教会の中であわれみと愛の実験をし、人々をご自分に引き寄せておられる。キリストの恵みによって人間の墮落した心の中に驚くべき変化が生じている。キリストの恵みによって罪人の品性の中で行われた働きは人の体に奇跡を行うよりもはるかに大いなる働きである。古い肉の性質は死に、新しい人がキリストのすがたにかたどってあらわれる。御使らはこの力強い働きを見て喜ぶ。彼らはこの罪にのろわれた地上にキリストが訓練学校を持っておられるのを見る。このお方は、闇と怒りの無知な子らを引き受け、自発的な臣民としてご自分から学ぶためにその足もとに連れてきてくださる。(ビュー・アンド・ハルド 1893 年 12 月 19 日)

3月4日

## 完全な導き

「真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。」(ヨハネ 16:13)

必要な知識はキリストのところへ来るすべての者に、このお方の教えを受け入れ実践し、そのみ言葉を自分の生活を構成するようにと与えられる。聖霊は、聖書を学ぶ者が万事を義と真理と公正の基準によって判断するようにと教える。神の啓示は彼が必要とする知識を彼に供給する。(両親、教師、学生への勧告 484)

聖霊は、サタンの人々の代理人たちの欺瞞的な詭弁よりも神の知恵を重んじる人々を導く。人間のせりふによってではなく、靈感と、イエス・キリストのうちにあるがままの真理の愛の下で多く祈りなさい。真理を愛する家族は、知恵と知性の言葉—聖書を調べた結果自分のところに来るみ言葉を語るべきである。今はテストと試みの時である。信仰を持つすべての家族のメンバーが兄弟について非難の言葉を口にしないよう唇を閉じなければならない時である。勇気を与えるような言葉、愛によって働き、魂を清める信仰を強めるような言葉を語りなさい。(クリス・コレクション 5)

あなたが天の恵みをただ受けるだけでなく、与えることができるように、信仰によって聖霊に教えていただく。

すべての者がキリストに屈服すべきである。少しも保留してはならない。神はわたしたちがお捧げする以上のものをわたしたちから期待しておられる。クリスチャンであると公言しながら、世の者と同じように語り、行動することは、エホバに対する侮辱である。わたしたちはわずかといえども世的な方針に同意することはできない。真理を信じることによって毎時間聖化される必要がある。(ゴスペル・ワールド 1899年12月1日)

神が召されるところへ行き、このお方がお与えになる言葉を語る準備ができている者を聖霊は導き指導なさる。謙遜で忍耐強いキリストのような働き人は、その働きにおいてそれが表れる。最善を尽くそうとすつつ出かけていく一人びとりに、彼の必要をすべて満たすことのできるお方の支えがある。(レビュー・アンド・ワールド 1911年3月2日)



## 自分自身に正直に向き合う

「見よ、あなたは真実を心のうちに求められます。それゆえ、わたしの隠れた心に知恵を教えてください。」(詩篇 51:6)

神のご品性をあらわすために、偽りのキリスト教信仰で自分自身を、教会を、世を欺かないように、わたしたちは神を個人的に良く知らなければならない。(教会への証 6 巻 13)

真のクリスチャンの働きは、なんと勤勉でたゆまない働きであろうか。彼はつねにキリストのくびきを負っており、悪い憶測は彼の心に根を下ろすことを許されない。彼には本物の慎み深さがあり、自分の資格や功績を語らない。彼の経験の中には自己賞賛はない。真のクリスチャン品性を構成するものに関して学ぶべきことが多くある。たしかに自己が膨れ上がったりはしない。真のクリスチャンは心を探り、手綱を持っておられ、心のうちに真理をお求めになるお方に目をとめ続ける。(ビュー・アンド・ハルド 1900 年 10 月 23 日)

もしキリストが栄光の望みとしてわたしたちの内におられるなら、わたしたちはこのお方のうちに比類のない魅力を発見し、魂は夢中になる。このお方にしっかりとつき、このお方を愛することを選び、そしてこのお方に感嘆するうちに、自己は忘れ去られる。イエスがほめたたえられ、あがめられ、自己は低くされ、へりくだる。しかし、この深い愛のない公言は、単なる空言(そらごと)であり、無味乾燥な形式であり、重苦しい苦役である。あなたがたのうち多くの者は、心は清められていないのに、頭の中では宗教の概念、すなわち外面的な宗教を持ち続けているかもしれない。神は心をご覧になる。「神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の御目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない」(ヘブル 4:13)。このお方は心のうちにある真理以外のどのようなもので満足なさるであろうか。真に改心した魂一人びとりは肉の思いが抑制されている間違えような印を身に着ける。……

あなたの最悪の問題を知ろうと決心しなさい。あなたが上からの嗣業を得ているかどうか、確かめなさい。あなた自身の魂を正直に取り扱いなさい。イエスはしみもその類のものが一切ない教会を御父にお捧げになることを覚えていなさい。

あなたは自分が神に受け入れられていることを、どのように知るのであろうか。このお方のみ言葉を熱心に研究しなさい。他のどんな本もこれより優先してはならない。この書は罪を自覚させ、救いの道をはっきりと示す。(教会への証 1 巻 162,163)

3月6日

## 誤謬からの自由

「真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ 8:32)

それがどんなに隠れていようと、何らかの罪にふけてもかまわないと思うことがないようにしよう。なぜなら、神は心のうちに真理を求め、隠れた心に知恵を要求なさるからである。あなたは、自分の兄弟たちが自分の悪事を知らないからといって安心するにはおよばない。あなたの兄弟をご存知のお方は、あなたの生活すべてをご存知ではないだろうか。開いた本のようにあなたの心をお読みになるのではないだろうか。あなたは罪にふけりながら、主のための証人であることはできない。なぜなら、あなたはわざにおいて、このお方を否定しているからである。あなたが人の前にも神のみ前にも罪に定められていないがゆえに持つことのできる大胆さ、すなわちあなたの信仰と祈りを特徴づけていなければならぬ聖なる大胆さは、どこにあるのであろうか。真理の側に立つあなたの鳴り渡るような証はどこにあるのか。

もしあなたが知っている罪にふけているなら、神の栄光について一言も述べてはならない。なぜならあなたの心の中にあなたを責める何かがあるからである。神の御霊はあなたの魂のうちにおられない。心の愛情すべてをもって神に降伏しよう。そうすればあなたは聖霊にあつて喜びと平安を持つ。あなたの知性、能力、あなたの魂と体と精神は神の御子によって無限の価をもって買われたものであつて、すべてはこのお方に属している。それでありながら、キリストが人間を贖われたにもかかわらず、このお方のものをこのお方にお捧げする者がなんと少ないことであろう。思いの中で、このお方から盗んでいる者がなんと多いことであろう。ああ、わたしたちは心の腰に帯を締め、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望まないものであろうか。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892年2月15日)

真理には霊的な感化力がある。それは真理であるお方から、まっすぐな墮落していない思いの中に入る。心のうちに受け入れられる真理は、最大の結果で満たされる。真理は心に受け入れられ、品性の中で発達し、また表されるべきである。

すべての偽りは真理から出るものではない。可能なかぎりあらゆる機会に、サタンは自分の欺瞞的な誤謬のパン種を持ち込もうとかまえている。真理の土台からねじの一本でもゆるめ、一本の柱でも取り除こうとする解釈に一瞬たりとも耳を傾けてはならない。(原稿リス 12 巻 125,126)

## 行動において真理に守られる

「あなたのあわれみをわたしに惜しまず、あなたのいつくしみとまこと (Truth) とをもって常にわたしをお守りください。」(詩篇 40:11)

この自己犠牲の法則は自己保存の法則でもある。地に埋もれた種は、実を結び、それがまたまかれる。こうして、収穫はふえていく。農夫は、まくことによって、穀物を保存するのである。そのように、人生においても、与えることは、生きることである。保存される命とは、神と人との奉仕のために、おしげもなくささげられる命である。この世においてキリストのために、その命を犠牲にしたものは、それを保って、永遠の命に至るのである。(キリストの実物教訓 66, 67)

神の民は彼ら自身の道徳上の特性によって世を完全な墮落から守るべきである。しかしもし彼らが道徳上の資質を失うなら、世を道徳的に汚れた状態から回復するのに何の役にも立たない。自分の救いの資質を守り、人類の益のためにそれらを働かせる者は、真理の光を放ち、キリストと協力しているのである。しかし自分の霊性を失う人々、はびこる不法のゆえに愛が冷える人々の敬神は弱々しく、味を失った塩のようである。彼らのエネルギーと有用性はなくなってしまったのである。(レビュー・アンド・ワールド 1895年4月30日)

今やわたしたちには時間がないのであるから、善と悪との間の大争闘の傍観者のようなつもりでいてはならない。わたしたちは信仰のよき戦いに積極的にかわるべきであり、これは思いの全精力、存在の全能力と力を要求する。わたしたちは救いの将の命令に従う忠実な兵士でなければならない。わたしたちが将の立場に取って代わるのではなく、毎時間キリストと絶えず交わりながら生きるべきである。わたしたちは真理を理論としてだけでなく実際に個人的に知らなければならない。神の原則を日々の生活の中に持ち込まなければならない。神は心のうちに真理を求め、隠れた心に知恵を要求なさる。このお方は、わたしたちが義を実践し、忍耐とあわれみと愛を表すよう要求なさる。わたしたちは神の聖なる律法のうちに表現された神のご品性という光の中で、自分の品性を注意深く検査しなければならない。完全な基準からわずかといえどもそれではならない。(同上 1897年11月30日)

3月8日

## 守りの盾

「〔主の〕まことは大盾、また小盾である。」(詩篇 91:4)

神は、み言葉の真理の中で、ご自身についての啓示を人間にお与えになった。そして、真理を受け入れるすべての者にとって、真理は、サタンの欺瞞から彼らを守る盾である。今日、宗教界に広く行きわたっている害悪に戸を開いたものは、これらの真理の軽視である。神の律法の性質と重要性が、ほとんど見失われている。神の律法の性格、永続性、義務についての誤った観念が、改心と聖化についての誤りをひき起こし、その結果教会内の敬虔さの標準を低下させるに至っている。ここに、今日のリバイバルにおいて神の霊と力が欠けている理由を見いだすのである。

さまざまな教派の信仰深い人々が、この事実を認めて嘆いている。エドワード・A・パーク教授は、現代の宗教的危機を指摘して、次のように言っている。「危険の原因の一つは、説教壇から神の律法を強く主張しないことにある。かつては説教壇は、良心の声が響くところであった。……われわれの最も著名な説教者たちは、主の模範にならって、律法の戒めと警告とを強調することによって、彼らの説教を驚くほど威厳のあるものにした。彼らは、律法は神の完全の写しであって、律法を愛さない者は福音を愛していないという、二大真理をくり返した。なぜなら律法は、福音と同様に、神の真の品性を反映する鏡だからである。この危険は、さらに次へと発展して、罪の害悪とその範囲、その恐ろしさなどを過小評価させるに至る。戒めが義であればあるほど、それに服従しないことははなはだしい悪なのである。……

上述の危険と密接に関係しているのが、神の義を軽視する危険である。現代の説教の傾向は、神の義を神の慈愛から引き離して、慈愛を原則として高めるよりむしろ一つの感情に低下させている。新たな神学は、神が結合されたものを分裂させた。神の律法は善か悪か。善である。それならば正義は善である。なぜなら、正義は律法を実施するものだからである。人間は、神の律法と正義を軽視し、人間の不服従の程度と恐ろしさを軽視する習慣から、罪の贖いのために備えられた恵みを過小評価する習慣に陥りやすい。」こうして人々は、福音の価値と重要性を忘れ、そしてまもなく、実質的に聖書そのものを放棄するようになる。(各時代の争闘下巻 191、192)

## 秘訣は屈服すること

「わたしは、わが魂をみ手にゆだねます。主、まことの神よ、あなたはわたしをあがなわれました。」(詩篇 31:5)

今日、どれくらいの人が、真理の力と麗しさを認めることであろうか。しかし彼らは神と富とにかね仕えることはできず、世に固執する。真理は彼らに世の名誉、仕事上の地位、日々の糧を犠牲にするよう要求する。そして彼らはたじろぎ失敗する。彼らは、まず天の王国を求める人々への神のみ約束を考慮しない。「わたしは自分の周囲の人々と違っていることはできません。人々は何といたのでしょうか」と言い訳をする。……わたしたちはどのように自分に仕えるかではなく、どのように神のみ旨を行うかを研究しなければならない。キリストはご自分の栄光を後にし、神性の上に人性をまとわれた。このお方は悲しみの人で、病を知っておられた。主はわたしたちのために貧しくなられた。それはわたしたちが彼の貧しさによって富む者になるためである。それなのになお、天がこのような大いなる愛を表された後ですら、わたしたちはもうじき過ぎ去る自分たちの乏しい宝をあきらめようとしないのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1887年12月1日)

わたしたちは夜休息のために横になる。しかし朝にはわたしたちが習慣にしている古い世的な一連の思考が思いに戻ってくる。そしてすべてを神のみ手に委ねる代わりに多くの事柄に悩まされ、前の晩に持っていた平安と喜びは去り、わびしく惨めに感じる。そのときわたしたちはどうするだろうか。神のところへ行き、次のように言おう。「わたしのすべての問題と当惑をお委ねします。そして、わたしはあらゆる苦悩において、あなたのみ助けがあることを知っています。なぜなら、あなたがそれをわたしに約束してくださったからです。あなたは『見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである』(マタイ 28:20)『わたしはあなたを助けるためにあなたの右にいる』と仰せになりました」。これらのみ言葉を信じ、イエスのみ約束に信頼し、あなたになすべき義務が生じるとき、それを行いなさい。もし、わたしたちが神に対して表しているのと同じくらい、自分の友人たちに信頼しない態度を表したとしたら、彼らはわたしたちからひどい仕打ちを受けたと感じることであろう。しかし、わたしたちが神をあしらうようには、友人をあしらってははいないのである。(ビュー・アンド・ハールド 1892年10月11日)

御霊の導きを熱心に嘆願し、真理によって聖化されるようにと心を完全に明け渡して聖書を研究の書とするなら、キリストが約束されたすべてのことは成就する。(両親、教師、学生への勧告 357)

3月10日

## 現実に直面する

「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。」(ヨハネ第一 1:8)

わたしたちは自分の不足には盲目である。自分の弱さをなかなか認識しない。また、自分の努力をやめるためではなく、わたしたちに改革と徹底的な回復をもたらすために、自分の過ちを範囲が及ぶ限り調べる必要があることをなかなか自覚しない。(原稿別ス6 巻 188)

墮落した人間がキリストの品性を知れば知るほど、自己に信頼しなくなり、またしみのない贖い主の生涯を特徴づけたみ働きと対照的に、自分の働きがますます不完全に見えるようになる。しかしイエスから遠くにいる者、その靈的知覚力が過ちによって非常に曇っているために偉大な模範であるお方の品性を悟ることのできない者は、このお方をまったく自分自身と同じようなお方として考える。(ラフ・スケッチ 84)

1844年にわたしたちが主の来られるのを待望していたとき、自分の心が神のみ前に正しいかを知ろうと、一人びとりはどれほど切望していたことであろうか。わたしたちが共に集まる時、「兄弟よ、あなたはわたしのうちに何か正しくないものを見ますか。わたしたちはしばしば自分の欠点には盲目であることをわたしは知っています。ですからもしわたしのうちに何か悪いことがあるなら、わたしにおっしゃっていただきたいのです」との質問が互いの間で交わされた。ときどき過ちが指摘されると、わたしたちはみな神のみ前にひざをかかめて許しを願う。もしなにか不一致や仲たがいが存在すると、全員が一致するまで離れることはできないと感じた。ときどき問題のある兄弟がいて、神に嘆願するためにどこか秘密の場所に共に出かけに行くのが見られた。そして彼らは心が愛で互いに結ばれて帰ってくるのであった。平安のかぐわしい精神がわたしたちの集まりの中にあり、神の栄光がわたしたちの周りにあった。信者の顔は天の光に輝いていた。(ヒストリカル・スケッチ 213)

敵が洪水のように押し寄せ、あなたを自分の罪の思いで圧倒しようとするとき、「わたしは自分が罪人であることを知っています。もしわたしが罪人でないなら、わたしは救い主のところへ行くことはできません。なぜならこのお方は『わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである』と仰せになるからです。そしてわたしは罪人なので、キリストのところへ来る資格があります」と彼に言いなさい。この方法によってあなたは悪しき者に打ち勝つ力を得る。あなたの信仰があなたを神の御座に結びつけたのであるから、上を見続けなさい。(ビュール・アンド・ヘルト 1892年10月11日)

## 本物の真理に基礎をおく本物の愛

「〔愛は〕不義を喜ばないで真理を喜ぶ。」(コリント第一 13:6)

わたしは、われわれは最後のあわれみのメッセージを持っていると信じている人々は、毎日新しい誤りを吸収している人々から離れることが必要であることを見た。わたしは、若い者も年を取った者も、彼らの集会に出席すべきでないことを示された。それは、魂に致命的な毒である誤りを教え、教理を教えるかわりに人間の戒めを教える彼らを、このようにして奨励することは悪いことだからである。このような集会の影響はよくない。もし神が、このような暗黒と誤りから救い出してくださったならば、われわれは、神がお与えになった自由の中に固く立って、真理を喜んでいなければならない。神は、われわれが、行かなくてもよいのに誤りを聞きに行くのを、お喜びにならない。なぜなら、意志の力によって人々に誤りが強いられているこれらの集会に、神がわれわれをつかわされるのでないかぎり、神は、われわれを保護されないからである。天使たちは、われわれを守護することをやめる。そして、われわれは、敵に攻撃されるままに放置され、サタンと彼の悪天使たちの力によって、暗くされて弱められる。そしてわれわれの回りの光は、暗黒によって汚される。

われわれは、作り話を聞いてむだに費やす時間はないことを、わたしは見た。われわれの心は、このようにして他にそらされることなく、現代の真理に満たされていなければならない。そして、われわれの立場について、もっと深い知識を得るように知恵を求め、柔和をもって、聖書からわれわれの希望の理由を説明することができるようにならなければならない。偽りの教理や危険な誤りが、人々の心に強えられるならば、人々は、主の日に立つ準備をイスラエルの家にさせる真理に、十分心を向けることができないのである。(初代文集 230～232)

今の時代、すべての魂に伝えられるべきであり、かつ神に受け入れられたいと望む者が実践しなければならない試金石となる真理を差し控えてはならない。わたしたちは神のみ言葉があらゆる任命された代理者のところに行くようにしなければならない。なぜなら神の民の前には危機があるからである。魂を精錬し聖化する真理の言葉を受けることができるように、キリストが真理と一つであるがゆえに真理を喜ぶことができるように、労しなさい。(レビュー・アンド・ヘルド 1909年9月9日)

3月12日

## 光の道を歩む

「主のすべての道はその契約とあかしを守る者にはいつくしみであり、まことである。」(詩篇 25:10)

あなたが地上に結びつけられているかのように、下を見てはならない。自分の信仰に根があるかどうかを見ようと、それを引き抜き続けてはならない。信仰は気づかずに成長するので、敵が総力を上げてあなたを危機的な状況に追い込むとき、神の御使らはあなたを囲み、あなたは上からの助けを得る。なぜならあなたの祈りは、闘争の中で答えられるからである。あなたに本物の信仰があれば、すべての祝福がそこから流れ出るお方、神をほめたたえる。そしてあなたがこのお方をほめたたえるときあなたはこのお方の祝福にもっと気づく。

「何がたくわえを増し加えるであろう、

わたしが感謝するとき、このお方はわたしにさらに賜うのだ」

神がわたしたちに光をお与えになるとき、わたしたちはそれを活用しなければならない。最初の光を感謝しないなら、神はわたしたちに第二の光線をお与えにはならない。わたしたちはすでに恵み深くも与えてくださった光のゆえに主をほめたたえ、それを周りの人々に反射しなければならない。そのとき、光はますますわたしたちを照らすようになる。そして、わたしたちが讃えればたたえるほど、「正しい者の道は、夜明けの光のようだ、いよいよ輝きを増して真昼となる」ことを知るようになる。聖霊がわたしたちに注がれるときに、わたしは主を賛美すると言ってはならない。もしあなたが日々光の内を歩まないなら、いつ聖霊が注がれるかをどうやって知るといえるのか。あなたは一步一步前進しながら、主の勧告にしたがって、自分の義務にとりかかるべきである。そうすればあなたは自分に光と平安と喜びがあることを見出し、心のうちでは主に快い調べがかなでられるであろう。このようにして神の民の賛美は天の万軍の賛美に加わり、神の御使らと共に感謝の歌を歌う。(レビュー・アンド・ヘルド 1892年10月11日)

わたしたちの世界でなすべき大いなる働きがある。そしてわたしたちは自分たちの道に輝く光のあらゆる光線に対して責任がある。光を与えなさい。そうすればあなたは与えるためにもっと光を受ける。自分のタラントを正しく用いる人々に大いなる祝福が来る。(世界総会冊子 1901年4月23日)



## 真理をすべての者に開く

「あなたのまことをもって、わたしを導き、わたしを教えてください。あなたはわが救の神です。わたしはひねもすあなたを待ち望みます。」(詩篇 25:5)

聖化を主張しながら、罪を探知する律法の光を受け入れようとしないう人々の立場は、なんと危険なことであろうか。聖化は神のみ旨に一致しており、神のみ旨はその聖なる律法の中に表されている。神の口から出る一つ一つの言で生きる者だけが真に聖化される。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月30日)

あなたは神の方法を知り、御霊の導きに従おうと熱心にへりくだって求めつつ、神のみ旨に完全に服従する精神を培わなければならない。あなた自身の理解力に頼ってはならない。自分自身の知恵と賢さに対して深い不信感を持つべきである。あなたの状況はこれらの警告を必要としている。人にとって自分の判断を信用するのは安全ではない。人は良くても能力に限りがあり、多くの者が生まれながらにして、品性の長所もまたはっきりとした欠点である短所も持ち合わせている。これらの特性は全生涯に影響を及ぼす。

神がお与えになる知恵は、人を自己吟味へと導く。真理は彼らにその過ちや存在する悪を悟らせる。心はこれらの悪を見、自覚し、認めるために開かれていなければならない。そしてそのとき、イエスの助けによって一人ひとりそれぞれに打ち勝つ働きに熱心に携わらなければならない。世の賢者の獲得する知識は、彼らがそれを身につけるためにどれほど勤勉であったとしても、結局は限られており、比較してみると劣っている。……

ときにはある行為が、正しいと判断したからではなく、単に習慣であるという理由で、毎日行われ、あくまでも続けられている。こうした状況においては、義務よりもむしろ感情が支配権を持つ。

もしわたしたちが自分の弱さを悟ることができ、また品性のうちに抑制を必要とするところと特徴を認めるなら、わたしたちが神の力強いみ手のもとに自分の心をへりくだらせるために、自分のためになすべきことが非常にたくさんあることを認めることであろう。わたしたちの無力な魂をキリストにまったくあずけて、わたしたちは自分の無知をこのお方の知恵で、自分の弱さをこのお方の強さで、自分のもろさをこのお方の永続的な強さで補っていただくべきである。そして、神と結びつくことによって、わたしたちは本当に世の光となるべきである。(教会への証 4巻 360～362)

3月14日

## 真理のみ言葉にある創造の力

「真理の言葉によって御旨のままに、生み出して下さったのである。(ヤコブ 1:18)

新生は神のみ言葉を受け入れることによって成就する。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1896年4月30日)

すべての世界を出現させた創造のエネルギーは、神のみ言葉のうちにある。神のみ言葉は能力を与え、生命を生ぜしめる。神のご命令の一つ一つは約束であって、意志がこれに同意し、魂がこれを受け入れるときに、そこには同時に限りない神の生命がもたらされる。それは人の性質を一変させ、魂を神のみかたちに再創造する。

このようにして与えられた生命は、また同じようにして維持される。人は、「神の口から出る一つ一つの言」(マタイ 4:4) によって生きなければならない。(教育 135, 136)

野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。草木が冷たい暗い土から、あるいは川底の泥の中から芽生え育って、どうして美しく花を咲かせ、かおりを漂わせるのか考えてみるがよいとイエスは仰せになる。だれが、ゆりのあの褐色のごつごつした球根の中に、美の可能性を想像することができるだろうか。しかし、その中に隠れている神の生命が、その呼びかけに従い、雨と日光を受けて開くとき、人々はその優雅で美しい姿に驚くのである。それと同じく、神の恵みの働きかけに従うすべての者の心の中に、神の生命が芽ばえるのである。この神の恵みはちょうど雨や日光のように、すべての人に豊かな祝福をもたらすものである。草花を創造したのは神のことばであるが、その同じことばがあなたのうちに、聖霊の実を生み出すのである。(祝福の山 119,120)

主はご自分が創造された木々やつる性の植物にご自分の命を与えておられる。このお方のみ言葉は地の実を増やすことも減らすこともおできになる。……神の命がなければ自然は死んでしまう。このお方の創造の働きはこのお方に依存しており、主は自然界が産するすべてのものに命を支える養分をお与えになっている。わたしたちは実をつけた木々を、ちょうどこのお方がわたしたちの手に実を置かれたかのように神の賜物として見るべきである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホワット・コメント] 1 巻 1081)

キリストが日ごとにあなたのうちにあらわされるようにしよう。そうすればキリストはあなたを通してのみことばの創造的な力—他の人々をわたしたちの神である主のうるわしさを持つように再創造する静かな、説得力のある、しかも力強い感化力—をあらわされるのである。(祝福の山 160)

## 真の礼拝

「まことの礼拝をする者たちが、霊とまこととをもって父を礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父は、このような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまこと (Truth) とをもって礼拝すべきである。」(ヨハネ 4:23, 24)

真理を擁護して議論するだけでは、十分ではない。真理の価値を示すもつとも説得力のある証拠は、信心深い生活のうちに見られる。そしてこれがなければ、もつとも決定的な言葉も、重みと支配的な力に欠けるのである。なぜなら、わたしたちの力強さは聖霊を通して神とつながっていることにあり、不法は、わたしたちの力と知恵の源であるお方との聖なる近さからわたしたちを切り離すからである。わたしたちはこの時代のための真理に世の注目を集めなければならない。そしてもしわたしたちがその働きの進展を見たいのであれば、わたしたちのただ中に憎むべきものは何一つないことを確かめなくてはならない。……

イスラエル人は自分たちの力強さが、契約の箱ではなく神の内にあることを忘れた。そして今日真理を擁護する人々は、自分たちの力がその論拠の明快さにあるのではないということを学ばなければならない。それはたとえ神のみ言葉によって立証されていたとしても、自分たちの教理の合理性のうちにあるのでもない。また、律法および真理の要求を信じる彼らの信念にあるのでもない。それは、神の御子の信仰によってそのすべての要求に服従することにあるのである。

神はご自分に従う者の心の奥底に真理を要求なさることを覚えて、過去の警告に聞き従おう。なぜなら霊とまこととをもって捧げられる礼拝だけが受け入れられるからである。清い手と純潔な心を持った者は天来の力の助けに気づき、神の救いを見る。しかしだれも、神はご自分のみ言葉に逆らう者に好意を示してくださると考えないようにしよう。なぜなら「その滅ぼされるべきものを、あなたがたのうちから除き去るまでは、敵に当ることはできないであろう」とこのお方は仰せになるからである(ヨシュア 7:13)。(ビュー・アノド・ハルド 1888年3月20日)

わたしたちは霊とまこととをもって主を礼拝しているのだろうか。あらゆることが神の奉仕の下にくるべきである。自分に仕え、世に仕え、サタンに仕えるようにと誘惑があらゆる方向から示される。しかし、わたしたちはキリストが勝利されたように勝利すべきである。(同上 1892年7月5日)

3月16日

## 真理のうちを歩む

「ああ主よ、わたしが真実と真心をもってあなたの前に歩み、あなたの目にかなうことをおこなったのをどうぞ思い起してください。」(列王記下 20:3)

わたしたちがイエスのみすがたに変えられるようになるのは、イエスに目を留め、このお方の麗しさを眺め、わたしたちの目をこのお方にしっかりと固定させることによってである。このお方はご自分の道を守り、ご自分の御旨を行い、真理のうちに歩むすべての者に恵みを与えてくださる。しかし、自分自身の道を愛し、自分の意見という偶像を拝み、神を愛さず、このお方のみ言葉に従わない者たちは、闇のうちを歩き続ける。ああ、不信はいかに恐ろしいものであろう！盲人に光を注ぐのも、これらの魂に真理を提示するのも、同じようなものである。一方は見ることができず、もう一方は見ようとしないのである。

教会名簿にふさわしい教会員として登録されている人々に懇願する。キリストの徳を通して、本当にふさわしい者になりなさい。へりくだって罪を悔いる魂には、神の憐れみと真理と愛が約束されている。あくまでも自分自身の道を歩み、自己を愛し、人の賞賛を愛する人々に対しては、神のご不興と裁きがある。彼らは、たしかに終わりの時代の悪魔的な惑わしのうちに一掃されてしまう。なぜなら、彼らは真理の愛を受け入れなかったからである。主が、かつて彼らを祝福し、誉れを与えてくださったゆえに、彼らは自分たちが選ばれた真実なものであつて、警告や教えや譴責を必要としないとうぬぼれている。(レビュー・アソッド・ハルト 1890年12月23日)

行いを伴わない信仰は、それだけでは死んだものであると、神のみ言葉は教えている。多くの者が、神の戒めに従うことを拒みながら、信仰は大いにもてはやす。しかし、信仰には基礎がなくてはならない。神のみ約束はみな条件に基づいている。もしわたしたちがこのお方のみ旨を行うならば、すなわちもしわたしたちが真理に歩むならば、そのときわたしたちは、望むものを求めることができ、求めたものはわたしたちに与えられるのである。わたしたちが熱心に従順であろうと努力するならば、神はわたしたちの嘆願を聞いてくださる。しかし、このお方はわたしたちが不従順のうちにあるときに祝福なさることはない。……あなたのご主人のために大きな働きをしようとか何か大きな機会を待って、何もせずに座っていてはならない。あなたは自分の行く手にある義務をなおざりにしてはならない。そうではなく、あなたの周囲にあらわれる数々の小さい機会を活かさなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1890年6月16日)

## 内から外にあらわれる正直

「主よ、あなたの幕屋にやどるべき者はだれですか、あなたの聖なる山に住むべき者はだれですか。直く歩み、義を行い、心から真実を語る者」(詩篇 15:1、2)

すべての神の戒めの目的は、神に対してばかりではなく、同胞に対する人の義務を明らかにすることである。この世界歴史の終わりの時代に、わたしたちは、自分たちの利己的な心のゆえに、これらの要求をなされる神の権威を疑問視したり、異議を唱えたりすべきではない。さもないと、わたしたちは自らを欺き、神の恵みの最も豊かな祝福を自分の魂から奪うことになる。心と思いと魂は、神のみ旨のうちに没入しなければならない。そのとき、無限の知恵のご命令によって構成され、王の王、主の主の権力と権威によって拘束力のあるものとされた契約は、わたしたちの喜びとなるのである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホイト・コメント] 1120)

主は、恵み深くも人が永遠の命のために品性を完全にするための恩恵期間を与えてこられた。しかし、利己的な者や、他人をおとしめることによって自分を高めようとする人々、すなわち人の品性にある一つ一つのちりや欠点を最大限に利用する人々は、命の住まいに入るのにふさわしくない梁が彼らの目に入っていることを証明している。純潔で寛容な優しい考えと行動が生活に表されるためには、神聖な信心の原則が心のうちに宿らなければならない。ひそかな働きや、欺きや、自分の兄弟の目にあるちりを探そうとする熱意や、自分自身の目には梁があるのにちりを取り除こうとするおせっかいな努力などは、神にとって忌まわしいことである。告発者が自分自身の心の悪を発見し、自分の罪に対して心からの悔い改めを感じ、自分の悪を告白しないかぎり、彼は自分の兄弟の目からちりを取り出すほどのはっきりした視力を持つことはできない。自分自身を欺くのはたやすいが、神を欺くことはできない。このお方の耳にとっては、敬神の見せかけにすぎないなめらかな言葉や口先だけの言葉は、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢のようなものである。天の原則が心に織り込まれないかぎり、すべての外面的な告白は見せかけであり、欺瞞である。神はすべての人の敬神をその動機の性質によって測られる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1892年8月16日)

3月18日

## 偽りという汚点がない

「真実を語る人は正しい証言をなし、偽りの証人は偽りを言う。」(箴言 12:17)

キリストが天の雲に乗って再臨なさる直前のこの時代に、主は、熱心でかつ主の大いなる日に立つために民を準備させる人々を求めておられる。書物の研究に長い間費やしてきた人々は、自分たちの生活において、この終わりの時代に欠くことのできない熱心な伝道の働きを表していない。彼らは単純でまっすぐな証を担わない。(ノートブック・リフレット1巻104)

真理は神からのものである。種々様々の形態を装うあらゆる欺瞞はサタンからのものである。であるから、どんな方法においても、真理のまっすぐな道から離れるものは、悪魔の力に自分を売り渡しているのである。キリストの教えを受けた者は「実を結ばないやみのわざに加わらない」(エペソ 5:11)。彼らは生活におけると同様、言葉も単純、正直、誠実である。彼らはその口に偽りが無い聖なる人々との交わりに入る準備をしているのである(黙示録 14:5 参照)。(国と指導者上巻 219)

神への服従の道は、わたしたちがとるべき最も賢明な道である。なぜなら、それはたしかな結果として平安と満足感と幸福をもたらすからである。

もしくちびるが絶えず守られ、一言の偽りもくちびるを腐敗させるようなことがなければ、どれほどの苦しみや墮落や惨めさを防げることであろう。もしわたしたちが、神を辱めることがないように、罪に対する必要な譴責を除いては、傷つけたり、悲しませたりするようなことを一言も口にしないならば、どれほどの誤解、恨み、苦痛が避けられることであろう。もしわたしたちが快活な言葉、希望や神を信じる信仰の言葉を語るならば、わたしたちはどれほどの光を他の人々の道に照らし、さらに明るくわたしたち自身の魂にまで反射できることであろう。神への服従の道は、徳と健康と幸福の道である。救いの計画は、聖書に表されているとおり、人が幸福を手に入れ、この地上での自分の生涯を延ばすことができ、また同様に天の恩寵を楽しみ、神の命によって測られる将来の命を確保する道を開く。靈感の言葉は決して失望に終わることがない。わたしたちが条件に従うときはいつでも、主はかならずご自分の約束を果たしてください。(レビュー・アソッド・ワールド 1883年10月16日)

## 信頼できるたよりになる約束

「真実を言うくちびるは、いつまでも保つ、偽りを言う舌は、ただ、まばたきの間だけである。」(箴言 12:19)

約束は、約束した人の誠実さによって判断される。多くの人々はただ破るために、すなわち信頼する心をあざけるために約束する。そのような人により頼む人々は折れた葦により頼んでいるのである。しかし、神のなされたみ約束の背後には、神がおられる。このお方はいつもご自分の契約を覚えておられる。そしてこのお方の真理は全世代に及んで持続するのである。(ユース・インストラクター 1900年2月15日)

真理は心に印象づけられ、良心によって推奨される。しかし、人は疑い始める。なぜこの真理を信じる人がこれほど少ないのであろうか。彼らは尋ねる、牧師や博学な人でだれかそれを信じた人がいるのであろうか。

多くの人々はこの世における地位を失うことを恐れて、真理に従うことを拒む。彼らは真理の道に不都合が生じると、救い主に従うことをやめてしまうのである。彼らは真理を拒むことが永遠の命を失うことを意味するのに気づかない。

天の知的存在者たちは、誘惑する者と誘惑される者の間の闘争を非常な関心をもって見守っている。それは決着をつけるべき生死の問題である。キリストはこのことをご存知である。そして、魂がはかりの上で揺れている人々の前に、服従か不服従の確実なテストをかかげて、次のように言われる、「自分の命を愛する者」—自分の名声、自分の評判、自分の金銭、自分の財産、自分の仕事を愛する者—は、「それを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう」(ヨハネ 12:25)。神の律法への違反のうちに生きる命を憎む人、神聖な要求を受け入れ、結果は神にお任せする人は、永遠の命を得るようになる。(レビュー・アソシエイト 1900年11月13日)

イエスを自分たちの救い主として愛することはわたしたちの義務である。このお方にはわたしたちの愛をお命じになる権利がある。しかし、このお方はわたしたちにその心を捧げるようにとお招きになる。このお方は謙遜で誠実な服従の道をご自分と共に歩むようにと呼びかけておられる。……もしわたしたちが永遠に続く年月を通じてキリストと共に生きることを選ぶのであれば、なぜ今このお方を、わたしたちが最も愛し信頼できる友、わたしたちの最も賢明な最高の勧告者として選ばないのであろうか。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年3月17日)

3月20日

## 真理の言葉によって聖化される

「真理によって彼らを聖別(聖化)して下さい。あなたの御言は真理であります。」  
(ヨハネ 17:17)

あなたの人類同胞の生活を見る代わりに、イエスを見なさい。そこには少しも不完全さがなく、ただ完全、義、善、憐れみ、そして真理を見るのである。(原稿 7 卷 153)

一つとして過ちは魂を清めることはできない。わたしたちはこれを心に留めていなければならない。聖化は過ちを通してではなく、真理を信じることによってもたらされるのである。わたしたちは確かな約束の言葉に基づいた信仰を持つ必要がある。(ビュー・アソ・ワルド 1909 年 9 月 30 日)

わたしたちのうちどれほどの人が、神のみ言葉を正しく評価しているであろうか。わたしたちは聖書の証を神のみ声として受け入れているであろうか。聖書を通してわたしたちに届く神のみ声は、このお方が民の全聴衆の前でシナイから語られたときにイスラエルに届いた声と同様にまぎれもないものである。わたしたちのうちどれほどの人がそのみ声をこの観点から考えているであろうか。もしわたしたちが、それをこのように考えるなら、わたしたちの日常生活の言葉や行動にどれほどの変化が見られることであろう。わたしたちはどれほどの敬神と畏れをもって、真理を、すなわち魂の聖化が成し遂げられる媒体を知るために、神のみ言葉を探ることであろうか。わたしたちが聖書を探るにあたって、無関心や不注意はも許されない。わたしたちの霊的な発達は、わたしたちの真理の知識に、すなわち律法の戒めとわたしたちの主の教えの中に具体化されたとおりの真理の神聖な原則をわたしたちが実践することにかかっている。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1891 年 4 月 6 日)

神のみ言葉は、聖なるものと俗なるものを見分ける信仰、そしてご自分の血という贖い代によってわたしたちの存在のもろもろの力を買われたお方に喜ばれる生涯を捧げる信仰の資質を明確に述べている。すべての人は何らかの信仰を持っている。しかし魂を清めるのは、愛によって働く信仰である。この信仰は、生活をあらゆる自己奉仕から清め、人の独断的な強要に対する黙従から清める。それは精神と、言葉と、行動に表される本物の信仰である。そのような信仰を持っている人の生活には、キリストのみ旨が日々実行されるのである。(ビュー・アソ・ワルド 1909 年 9 月 30 日)



## 聖化とは精錬を意味する

『彼を知っている』と言いながら、その戒めを守らない者は、偽り者であって、真理はその人のうちにない。(ヨハネ第一 2:4)

人々が、聖潔、聖潔!聖化、聖化!献身、献身!と叫びながら、なお経験によつては自分の話していることを、墮落した傾向を持った罪人とまったく同様に知らないということもありえる。肉の思いを持った人が魂の醜さを隠すために身のまわりに巻きつけた見せかけの聖化であるこの白く洗われた衣を、神はまもなくはぎ取られる。

人の子らの行動について忠実な記録がつけられている。高く聖なるお方の目から隠せるものは何一つない。ある者は、神の律法に真っ向から反対した道を取りながら、その後、自分たちの罪深い道を覆い隠すために、神に献身していると公言する。この聖潔の公言は、彼らの日常生活の中に現れてこない。それは彼らの思いを高める傾向を持っていない。(教会への証 1 巻 336)

キリストを信じる信仰は働きによって実証される。それは神の聖霊の力ある働きを通して、品性の改変を生じさせる。利己心と誇りは全力で、それらが罪深いことを示すものは何であつても立ちはだかる。しかし見えない方を見ているようにして、忍びとおす人はみな、十字架の下で非常に低く伏さなければならない。魂の悔悟が、キリストの恵みを受けたすべての人の経験を特徴づける。(レビュー・アンド・ヘルド 1897年2月23日)

わたしたちの心が神のみ言葉のうちにあるその律法の要求を読むときに燃え立つなら、またわたしたちが詩篇記者と共に「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」と祈ることができるなら、わたしたちは十字架につけられ、よみがえられた救い主の血の功績を主張する立場におり、またわたしたちは真理を信じることによつてもたらされる聖化を御父に求められたキリストの祈りに完全により頼むことができる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1875年7月22日)

聖化とは精錬を意味する。上からの知恵は、第一に清く、次に平和である。わたしたちはこうしてのみ、真理を宣べ伝えることによつてキリストがこの世でなされた働きをする資格を得ることができる。(原稿 4 巻 355)

真の聖化は自発的な服従を通してもたらされる。(同上 5 巻 123)

3月22日

## 純潔な真理には力がある

「わたしが書きおくれたのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、それを知っているからであり、また、すべての偽りは真理から出るものでないことを、知っているからである。」(ヨハネ第一 2:21)

すべての偽りは真理から出るものではない。もしわたしたちが巧みな作り話を using なら、わたしたちは神とキリストに敵対する敵の力に結託することになる。神は人間の作り出したくびきを負ってきた人々に、このくびきを砕き、これ以上人間の奴隷とならないようにと呼びかけておられる。

戦いは進行中である。サタンとその使たちはあらゆる不義の惑わしと共に働いている。彼らは結託して、魂を真理から、また義から引き離し、全宇宙に墮落を広めようと努力している。彼らは魂をとりこにしようと数多くの欺瞞を飾るために、驚くばかりの勤勉さで働く。彼らの努力はやむことがない。敵はいつも魂を無宗教と無神論に導こうとしている。彼は神と、またキリストを排除したいのである。このキリストは神のみ旨に服従するときに、わたしたちが罪に対して勝利できることを教えるために、肉体となり、わたしたちのうちに宿られたのであった。

あらゆる形態の悪は、わたしたちを攻撃しようと機会をうかがっている。へつらい、わいろ、勧誘、すばらしい昇進の約束は、もつとも粘り強く用いられる。

神の僕たちは、この悪に対する「主はこう言われる」という防壁を築くために何をしているであろうか。敵の代理人たちは真理に対して勝利を得ようと絶えず働いている。主の群れの忠実な保護者はどこにいるであろうか。このお方の見張り人はどこにいるであろうか。……医事伝道者はどこにいるであろうか。彼らはキリストのくびきを負い、キリストと共に働く者であろうか、あるいは、人間の作り出したくびきを負っているであろうか。(特別な証シリーズ B2 巻 p12、13)

わたしたちはひざまずいて神の約束を主張し、わたしたちが純潔な混ぜもののない真理を受けられることができるように、そしてこの真理を他の人々に伝える必要性を自覚できるように求めるべきである。そのとき、男も女も改心する。新しい教会を建てていくときに、神のみ手が認められるようになる。主は、真理を知らない人々のいるところで伝道の働きをするために出て行く多くの人々に、使徒の霊をもってバプテスマを授けてくださる。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1901年8月21日)

## まことの愛

「子たちよ。わたしたちは言葉や口先だけで愛するのではなく、行いと真実とをもって愛し合おうではないか。」(ヨハネ第一 3:18)

あらゆる利己心は、神の律法によって有罪を宣告されており、わたしたちは神の管理人とされている。であるから、自分の兄弟たちをなおざりにしたり、彼らに対して無関心になったりすべきではない。わたしたちは自分たちの周りにいる人々を愛さないかぎり、神を愛することはできない。人はその心のうちにあることを表す。言葉にはわずかな価値しかない。愛は同情の行いや、虐げられている人や貧困や苦しみや誘惑のうちにある人への親切によって表現されるべきである。神の行いは聖化の実である。わたしたちが善を行い、光を注ぎ、はっきりわかるような祝福を与える機会を待ち見張っているときに、そうすることで、なにか大きなことをしているかのように感じない。それでも、イエスは他の人になされた一つ一つの親切な行為をご自分になされたものとみなしてください。

神の律法の規則によって歩もうとする人は、自分自身の利益を大事に思うように、自分の兄弟たちの利益を大事に思う。このようなかたちであらわされた本物の敬神は、心の思いと意図を読まれる神の御目に、あらゆるかたちの誇らしげな公言よりも価値がある。正真銘のクリスチャンは、「願ひ求めるものは、なんでもいただけるのである。それは、わたしたちが神の戒めを守り、みこころにかなうことを、行っているからである」と言うことができる。

わたしたちは、行動をうながす動機をどれほど注意深く吟味すべきことであろう!わたしたちが生来の心の傾向に従うとき、口では完全に主のものだと宣言していたとしても、自分の魂を神から引き離しているのである。自分たちの前に聖書を開いて、神の聖なる鏡の中を覗きこもう。そしてわたしたちの行いや計画が聖いかどうか調べよう。これは主の道であろうかと自問しよう。もしわたしたちが兄弟や隣人を傷つけたなら、傷つけた人と神のみ座の前で直面しなければならないのである。信条が違ったとしても、他の人の権利を侵害したり、正義と公義を行わずになおざりにすることが正当化されることはない。……聖なる律法のうちに明らかにされた神の思いは、わたしたちの生活の道案内であろうか。もしそうなら、愛と喜びと平和一しかり、天国一が、この地上でわたしたちの生活に持ち込まれるのである。(ユース・インストラクター 1897年12月9日)

3月24日

## 「真理の帯を腰にしめ」

「すなわち、立って真理の帯を腰にしめ」(エペソ 6:14)

キリストは他の人々への驚くべき思いやり、あらゆる面で安定した冷静さを保たれた。どんな人間も決して匹敵しえない落ち着きと忍耐を持続し、善を行われた。パリサイ人とサドカイ人はこのお方の後に付きまっていた。そして彼らの多くは、このお方のみ言葉を聞いたとき、また怒りっぽく無礼な者に激しく責められたときでさえ、このお方が冷静であられることに気づいて、このお方を信じた。キリストは、まさにご自分を喜んで受け入れ感謝すべき人々から、陰険で欺瞞的な反対を絶えず受けなければならなかった。しかし、敵対者がこのお方に打ち勝つことができないがゆえに激怒して熱く興奮していても、いつも落ちついておられた。彼らの怒りと悪意は、彼らがどのような精神の者であるかを示した。

キリストが日々遭遇した恥辱と憎悪はどれも、このお方からその冷静さを奪うことはできなかった。このお方はののしられたとき、ののしり返すことはなさらなかった。あらゆる機会を用いてご自分をののしる人々をののしるために、感情を高ぶらせるようなことはなかった。礼儀正しい行動の範囲を決して超えることはなかった。このお方はどなたであろうか。天の至高者、栄光の王であられる。敵対者によってご自分の周りに大嵐が打ち寄せたが、このお方は心に留めず冷静でいることがおできになった。なぜならこのお方は生ける真理の体現者であられたからである。

だから、今日世に真理のメッセージを担う人々はキリストの生涯を研究し、その教訓を実践しなければならない。あなたがたは天におられる王の子であり、万軍の主のむすこ娘であることを決して忘れてはならない。たとえ偽りを支持するために下からの力に動かされている人々に出会うときにも、神にあって落ちついた静けさを維持しなさい。彼らが真理を誤り伝えることによってそれを傷つけようとどれほど努力をしても、彼らが所有する最高の武器は真理を破壊することはできないのは確かであることを覚えなさい。「もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか」(ローマ 8:31)。

キリストはご自分の重要さを表したり、卓越さを示すような言葉を一言も口になさらなかった。……このお方の言葉と行動は、このお方がご自身の使命と品性を知っておられることを示していた。(サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1897年6月24日)

## 真理で武装して戦闘に

「あなたの光とまことを送ってわたしを導き、あなたの聖なる山と、あなたの住まわれる所にわたしをいらせてください。」(詩篇 43:3)

キリストに真に従う人々は、兄弟として愛し、地の塩であり、世の光である。あらゆる真の信者は明けの明星から光線をとらえ、その光を暗闇にいる人々に伝える。彼らは自分自身の隣人の中で暗闇のあいだを照らすばかりではなく、教会としてかなたの地方にも出て行く。主は一人ひとり自分の義務を行うことを期待しておられる。教会とむすびついている一人ひとは、キリストと一つになって、明けの明星の光線を放散し、世の光となるべきである。キリストとその民は世を救うその大いなる働きにおける共労者でなければならない。

教会は、本来教育を受けるべきであるが、まったくといっていいほど受けてきていない。彼らは祈ったり、神に礼拝するために集まる人々に聖書を開いてみせたりすることを、牧師に頼るよう教育されてきた。神は民が神のみ声を聞き、主人であるお方のために働きに出かけることを望んでおられる。福音を宣布するために按手を受けていない幾千もの人々が働きに携わることができる。もし神の愛が魂のうちに宿っている生きた要素であれば、兄弟の間には愛が存在するようになり、偉大な教師であるお方の戒めに無関心であった多くの人々、すなわち今は互いに咬みつき、食らいついている多くの人々が、自分の過ちを自覚し、親しい交わりへと引き寄せられる。神はより良いもののために、あらゆる備えをしてくださった。神の民には、戦うべき厳しい戦いがある。しかし、これらの戦いが自分の兄弟に対するものであってはならない。神の働き人の最も弱い者でさえ、彼の感化力を傷つけ、弱め、損なおうとする一切のことは、イエス・キリストの感化力を弱めようとするものとして天の書に記録される。わたしたちが着手しなければならない戦いは、神の民に敵対して隊列を組んでいる悪の同盟に対してである。しかし、自分の武器を自分自身の兄弟に向ける人々は災いである。神は、わたしたちが天の御使たちと一つになって戦うべきこと、また御使以上のものたちがその闘争に従事していることを、わたしたちに思い起こさせて下さる。(ホーム・ミッションナリー 1896年8月1日)

3月26日

## 真理の旗を掲げる

「あなたを恐れる者のために、旗をお与えになりました。それは真理のゆえに掲げられるためです。」(詩篇 60:4 英語訳)

第三天使のメッセージを聞いて受け入れた一人びとりは、汚れなく墮落していない真理の旗を高くもつと高く掲げるべきである。落伍者のために数多くの人々が働いている一方で、神の道徳的なぶどう畑はどこも収穫のために色づいているにもかかわらず、真理がない状態であることを示された。神の民の一つ一つの組織は、一人びとりの個人と同様に、大声で世に警告の最後のメッセージを与えるという神に対して果たすべき責任がある。力ある断固とした訴えが、最上の方法でなされるべきである。(原稿リ-ス 14 卷 160)

キリストの代理者である聖霊は、勝利へ押し進むために、もっとも弱い者を大きな力で武装する。神はすべての人をご自分に引き寄せるために、ご自分の手段を準備しておられる。このお方は按手によって献身したことのない多くの人々をご自分の働きのためにつかわされる。このお方はこのような働き的手段に対して起こるであろう反対のために、それらが起こる前ですら、対処してくださる。神は初めから終わりをご覧になり、あらゆる必要をご存じで予期なさり、あらゆる緊急のためにお備えになる。(ホーム・ミッション- 1896 年 8 月 1 日)

真の伝道の働きは、教会に確かな基礎、すなわち次の証印「主は自分の者たちを知る」が記された基礎を据える(テモテ第二 2:19)。そのとき神はご自分の民の中で栄光をお受けになる。クリスチャンの伝道はイエス・キリストの上に建てられる。神の指揮の下にその働きは前進し、その働きが本物であることを無数の証拠がしめす。働き人は自分に栄光を帰そうとせず、神をあらゆる聖にして気高い働きの考案者、組織者としてほめたたえる。彼らは信者であると公言するだけでなく、信者である。彼らは真理によって聖化されている。なぜなら宣布されるだけでなく実行された真理には品性を純潔にする感化力があるからである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901 年 8 月 21 日)

「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」と刻まれている旗をわたしたちは掲げるべきである(黙示録 14:12 英語訳)。神の律法への服従は、大きな論点である。それを見失ってはならない。(ビュー・オブ・ヘラルド 1913 年 6 月 12 日)

## 「雲にまで及ぶ真理」

主よ、わたしはもろもろの民の中であなたに感謝し、もろもろの国の中であなたをほめたたえます。あなたのいつくしみは大きく、天にまで及び、あなたのまことは雲にまで及びます。」(詩篇 57:9、10)

キリストはわたしたちに真理の種をまくという任務を与えられた。そして、この地上歴史の終幕のただ中に生きている人々によってなされるべき働きの重要性をわが民に訴えてこられた。真理のみ言葉が大路や垣根のあたりで宣布されるとき、神の御霊が人の心に働いている現われが見られるのである。

ああ、もし真理、すなわち命の御言を持っているすべての者が、それを持っていない人々を啓蒙するために労するなら、どれほど多くの善が成し遂げられることであろうか。サマリヤの女の呼びかけでサマリヤ人がキリストのところへ来たとき、キリストは弟子たちに彼らのことを刈り入れの用意ができた麦畑だと言われた。……キリストは二日間サマリヤ人のところにとどめられたが、それは彼らが真理を聞くことに飢え渴いていたからであった。そしてなんと忙しい日々であったことであろう。労したその日々の結果として「そしてなお多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた」。これが彼らの証であった。「自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかったからである」(ヨハネ 4:41, 42)。

神の公言する民の中で、だれがこの聖なる働きに取りかかり、また知識が欠けているために滅びつつある魂のために労するだろうか。世は警告されなければならない。神に捧げられた忠実なたゆまない努力を必要とする多くの場所がわたしに示されている。キリストはわたしたちの大都市で、多くの人の心と思いを開いておられる。これらの人々は神の御言の真理を必要としている。だから、もしわたしたちがキリストとの聖なる近さに入り、またこれらの人々に近づこうと努めるなら、正しい印象を与える。わたしたちは目覚めて、キリストに共鳴し、また人類同胞に共鳴する必要がある。大小の町々で、また遠方や近隣で働かなければならない、しかも知的に働かなければならない。決して引き下がってはならない。もしわたしたちが御霊と一致して働くなら、主は心に正しい印象をお与えになる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1913年6月12日)

3月28日

## すべての機会をつかみなさい

「あなたがたのなすべき事はこれである。あなたがたは互に真実を語り」(ゼカリヤ 8:16)

わたしたちは現代の真理を含む印刷物の一行一行を聖なる宝として扱うべきである。パンフレットや定期刊行物の小部分であったとしても、価値あるものとみなすべきである。第三天使のメッセージの真理を含んだ破り取られたページが、真理を探し求めている人の心に及ぼす影響力を、だれかが推し量ることができよう。わたしたちが分かつことのできる本や書き物を全部喜んで読む人がいるかもしれないことを覚えよう。(ビュー・アンド・ハラド 1903年8月27日)

キリストと共に働いているすべての人にわたしは言う、あなたが炉辺で人々に接触できるときはどこであっても、あなたの機会を活かしなさい。あなたの聖書を手に取り、その偉大な真理を彼らの前に開いてあげなさい。あなたの成功は、あなたの知識や功績よりも、むしろ心に触れる道を見つけるあなたの能力にかかっている。社交的になり、人々に近づくことにより、もっともよくできた説教よりも、彼らの思想の流れを受け入れる方向へ向けることができる。

印刷物を持って行き、彼らに読むように頼みなさい。彼らは、あなたの誠実さを見るとき、その努力を少しでもさげすんだりすることはない。もっともかたくなな心に触れる道がある。単純さと誠心と謙遜のうちに近づくとき、それはキリストが死なれた人々の魂に触れる助けとなる。

機会を一つとして見過ごしてはならない。近所に住む人々を訪ね、同情と親切によって彼らの心に触れるよう試みなさい。病人や苦しんでいる人々を訪ね、彼らに優しい関心を表しなさい。もしできれば、彼らの苦痛を楽にするようなことを何かしなさい。この手段を通して、あなたは彼らの心に触れることができ、キリストのために一言語ることができる。永遠だけが、このような分野の働きがいかに遠くにまで及び得るかを明らかにする。

この働きに取りかからない人々は、すなわちこれまでである者が表してきたような無関心さをもって行動する人々は、まもなく自分たちのはじめの愛を失い、自分自身の兄弟たちを非難し、批判し、責めるようになる。

主人なるお方の精神のうちに出て行き、真理をもって魂に触れようとする人々は、……神の奉仕に献身すればするほど、ますます活気づけられる。他の人々に聖書を開いて見せる働きは、喜ばしい働きである。(今日のわたしの生涯 233)



## 自給伝道者

「善を計る者にはいつくしみと、まことがある。」(箴言 14:22)

自給伝道者はしばしば非常に成功する。ささやかな控えめな方法で始め、神の御霊の導きの下に前進するとき、彼らの働きは大きくなる。二家族かそれ以上の家族で福音伝道の働きを共に始めよう。彼らは働きの指導者からは、金銭的な援助といった具体的な励ましを何も受けないかもしれないが、そうであっても祈り、賛美し、教え、真理を生きて、前進しなさい。彼らは文書伝道の働きに従事することができ、この方法で真理を多くの家族に紹介することができる。彼らが働きで前進するとき、祝福された経験を得る。彼らは自分の無力を感じてへりくだるが、主は彼らの前に行かれ、金持ちや貧しい人々の間で好意と助けを見出す。これらの献身した福音伝道者の貧しきでさえ、人々に接近する機会を見出す方法の一つである。彼らが自分の道を行くとき、霊的食物をもたらししているその人々に、彼らは多くの方法で助けられる。彼らは神がお与えになるメッセージを携えて行き、彼らの努力は成功の冠を受ける。これらのへりくだった教師によらなければ決してキリストに勝ち取られることのなかったはずの多くの人が真理の知識へと導かれる。

神は収穫の用意のできた伝道地へ入るようにと、働き人にお命じになる。わたしたちは資金が乏しいからといって、あるいは今その伝道地で働き人を支える資金がほとんどないからといって待つのだろうか。信仰によって出て行きなさい。そうすれば神があなたと共におられる。……〔詩篇 126:6 引用〕。

成功ほど成功させるものは他にない。これを忍耐強い努力によって獲得しよう。そうすれば働きは進展し、新しい伝道地が開かれる。多くの魂が真理の知識へと導かれる。必要なのは、神を信じる増し加えられた信仰である。(教会への証 7巻 23, 24)

へりくだって神を畏れる男女が主に自分自身を捧げるとき、このお方は彼らを受け入れ彼らを通して働かれる。彼らが自分をこのお方と正しい関係に置くとき、彼らを他の人々への祝福の通路としつつ、上なる御座から光が彼らに降り注ぐ。(ビュー・アソ・ワルド 1902年 8月 26日)

3月30日

## 今と永遠のために

「主のまこと (Truth) はとこしえに絶えることがない。主をほめたたえよ。」(詩篇 117:2)

使徒の時代以来、各時代にわたって神の宮の建設はやんだことがない。幾世紀にわたる過去を振り返ってみるとき、われわれはそこに、神の宮を作り上げている生きた石が、誤謬と迷信と暗黒をつらぬいて光り輝いているのを見る。これらの尊い宝石は、永遠にわたって、ますます光彩を増して輝き、神の真理の力をあかするのであろう。これらの磨かれた石のきらめく光は、光と闇、真理の金と誤謬の鉄くずとの著しい対照をはっきり示している。

パウロもほかの使徒たちも、そのとき以来生存してきたすべての義人たちも、みな宮の建設に各々の役割を果たしてきた。だが、建築はまだ完成していない。今日生存するわれわれにも、なすべきわざ、果たすべき役割がある。……いのちのこぼを忠実に伝え、人々を聖潔と平安の道に導くクリスチャンは、耐久力のある材料を土台に加えているのであって、神の国において賢明な建築者として誉れを受けるであろう。

使徒たちについてはこう書かれている、「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった」(マルコ 16:20)。キリストが弟子たちをつかわされたように、今日も、主はご自分の教会の信者たちをつかわされる。使徒たちに与えられていたのと同じ力が彼らのために与えられる。神を自分たちの力とするとき、神は彼らと共に働いて下さり、彼らの努力はむなしくなることはない。……

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。(患難から栄光へ下巻 306 ~ 308)

## 真理を提供する報い

「門を開いて、真理を守る正しい国民を入れよ。」(イザヤ 26:2 英語訳)

イエスが火の炎につつまれて、雲に乗っておりて来られたとき、このお方の銀のラッパが鳴り渡った。このお方は、眠っている聖徒たちの墓をごらんになった。そして、このお方の目と両手とを天にあげて、「さめよ、さめよ、さめよ、土の中に眠っている者たちよ、起きよ」と叫ばれた。すると、大きな地震が起こった。墓は開かれて、死んでいた者たちが、不死をまとして出てきた。14万4千の人々は、死によって引き裂かれていた友人たちを認めて「ハレルヤ!」と叫んだ。それと同時にわたしたちも変えられて、空中で主に会うために、彼らと共に引き上げられた。

わたしたちは、一緒に雲の中に入り、七日間のぼって行って、ガラスの海に着いた。そのとき、イエスは、冠を持って来られて、ご自分の右の手で、それをわたしたちの頭にのせてくださった。彼は、わたしたちに黄金の立琴と勝利のしゅろの枝をお与えになった。14万4千の人々は、このガラスの海の上に、真四角に並んだ。星が重そうについた冠もあればわずかしかついていないのもあった。すべての者は、自分たちの冠に心から満足していた。そして、彼らはみな、肩から足までとどく輝く白い衣を着ていた。ガラスの海の上を都の門に向かって進むわたしたちを天使たちが、取り巻いていた。イエスは、力強い栄光のみ手をあげて、光り輝くちょうつがいのついた真珠の門を押し開き、「あなたがたは、わたしの血によって、あなたがたの衣を洗い、わたしの真理のために堅くたった。中に入りなさい」とわたしたちに言われた。わたしたちはみな進み入り、都に入る完全な権利が自分たちにあるのだと感じた。

都の中で、わたしたちは、命の木と神のみ座とを見た。み座から清い水の川が流れ出ていて川の両側に命の木があった。川のこちらにも幹が一つ、川の向こう側にも幹が一つあって両方とも清く透き通った金であった。はじめ、わたしは二本の木を見たと思った。もう一度よく見ると、二本の木は上でつながって一本の木になっているのを見た。こういうわけで命の川の両側に、命の木があった。その枝は、わたしたちの立っている所に垂れ下がっていた。その実は見事で、銀の混じった金のようなようであった。(教会への証 1巻 p60、61)

4月1日

## 十二人の召し

「〔イエスは〕弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び出し、これに使徒という名をお与えになった。」(ルカ 6:13)

キリストはみわぎをお進めになるにあたって、ユダヤ議会の学識と雄弁、あるいはローマの権力を選ばれなかった。すぐれた働き人である主は、この世を動かすはずの真理を宣べ伝えるにあたって、ひとりよがりのユダヤの教師たちには目をお向けにならず、謙遜で無学な人々をお選びになった。これらの人々を主はご自身の教会の指導者として訓練し、教育しようとお考えになった。彼らが次に他の人々を教育し、福音の使命を携えて行かせるのである。彼らがその働きを成功させるために、彼らには聖霊の力が与えられるのであった。福音は人間の力や知恵によらず、神の力によって宣べ伝えられるはずであった。

三年半のあいだ、弟子たちはこの世に知られた最も偉大な教師、キリストの指導を受けた。キリストは個人的な接触や交わりによって、ご自身の働きのために彼らを訓練された。毎日彼らは、疲れている者や重荷を負っている者に語りかけておられるキリストの励ましのことばを聞き、また、病人や苦しみ悩む者にみ力を現されるのを見ながら、キリストと共に歩き、そして語った。……主は弟子たちにこれをせよ、あれをせよとお命じにならず、ただ「わたしについて来なさい」と言われた。……

十二弟子の任命によって、キリストが去ってのち地上でみわぎを続ける教会を組織するための第一歩が踏み出された。……

その感動的な場面を見よ。天の主権者がみずからお選びになった十二人の弟子たちに取り巻かれているさまを見よ。キリストは今、弟子たちをそれぞれの仕事に聖別なさろうとしている。これらの弱い代理者たちをお用いになり、ご自身のことばとみ霊によってキリストはすべての者に、もれなく救いを得させようと計画しておられるのである。

神と天使たちは、歓喜してこの光景を見守った。み父は、天の光がこの人々から輝き出ることをごぞんじであり、彼らがみ子のために証言をしたとき、彼らが語ったことばは、時の終わりにいたるまで代々にわたって響きわたることを知っておられた。(患難から栄光へ上巻 p 9～11)

## 福音の使者

「〔キリストは〕高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた。……そして彼は、ある人を使徒とし、」（エペソ 4:8,11）

キリストは上なる聖所で仕えておられるお方である一方、ご自分の代表者たちを通して、地上の教会でも仕えておられる。このお方はそのへりくだりの日々、目に見えるかたちで地上を歩き来しておられたように、お選びになった人々を通して民に語り、彼らを通してご自分の働きを進められる。幾世紀を経たが、時の経過はこのお方が弟子たちになされた別れ際の約束を変えてはいない。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」（マタイ 28:20）。キリストの昇天から今日に至るまで、神から按手を受け、このお方から権威を得た人々が信仰の教師となってきた。真の羊飼いであられるキリストは、これらのしもべである牧者の媒介を通してご自分の働きを監督なさる。このようにみ言葉と教理で労する人々の立場は、非常に重要なものとなる。彼らはキリストに代わって、神と和解するようにと、人々に懇願するのである。

民は自分たちの牧師を単なる公の演説者あるいは講演者とみなすのではなく、教会の大いなる頭であるお方から知恵と力を受けているキリストの大使と考えなければならない。（福音宣伝者（1892年）11）

それはすべての人が教理の構成を知り、真理の鎖の輪が次々とつながって完全に全体として結びついているのを見ることができると、理論だてた説教は重要である。しかし、どの説教も一つとして、福音の土台としてキリスト、しかも十字架につけられたキリストを示すことなく、真理の実際的な適用をさせずに、また、人々にキリストの教理はしかりと否なのではなく、しかりアーメンであるという事実を人々に印象づけることなく伝えるようなことがあってはならない。

真理の理論が示された後に、働きの骨の折れる部分が待っている。人々は彼らの毎日の生活にかかわる実際的な真理における教えを受けまいままに放っておかれてはならない。彼らは自分が罪人であり神に改心する必要があることを知り、感じなければならない。キリストが仰せになったこと、このお方がなされたこと、このお方がお教えになったことが、最も印象的な方法で彼らの前に持ち出されなければならない。（福音宣伝者（1892年）12, 13）

4月3日

## 城壁の上の見張り人

「神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒」(コリント第一 12:28)

古代、エルサレムあるいは他の町々の城壁に配置された見張り人は最も責任のある立場を占めていた。それらの町の中にいるすべての者の安全は彼らの忠実さにかかっていた。危険を察知すると彼らは昼も夜も沈黙をしてはならなかった。数秒おきに彼らは、全員が目覚めているかどうか、どのような危害もこうむっていないかを知るために、互いに呼び交わさなければならなかった。歩哨は、守るべき重要な持ち場を見渡せるどこか高い所に配置された。そして警告あるいは励ましの叫びが彼らから発せられた。各々その言葉を繰り返し、町全体を一巡するまで、それは次々と伝えられていった。

これらの見張り人は、牧会を表しており、彼らの忠誠に魂の救いがかかっている。神の奥義の管理者はシオンの城壁の上にいる見張り人として立たなければならない。もし剣が向かって来るのを彼らが見るなら、警告を発ししなければならない。もし彼らが眠い歩哨であったり、彼らの霊的な感覚が非常に麻痺しているがために危険を見て気づかなかつたりすると、民は滅び、神は彼らの血をその見張り人の手にお求めになる。(福音宣伝者 21,22)

シオンの城壁の上で見守る者は、神と親しく交わり、聖霊の印象に敏感になる特権を与えられている。神は、彼らを用いて、人々に危険を告げ、安全な場所に導かれる。彼らは忠実に、罪の確かな結果について人々に警告を与え、忠実に教会の利益を保護しなければならない。彼らは、どんな時にも、警戒をゆるめてはならない。彼らの働きは、人間のすべての能力を活用しなければならない働きである。彼らは、ラッパの音のように彼らの声をあげ、不安定な震える音は、絶対に出してはならない。彼らは、賃銀のために働くのではなく、そうしなければならないからであり、福音を宣べ伝えなければわざわいであると感じるからである。彼らは、神に選ばれ、献身の血の証印を受けたのであるから、人々を切迫する滅亡から救い出さなければならない。(患難から栄光へ下巻 42, 43)

## 最も謙遜な僕

「あなたがたの知っているとおり、異邦人の支配者たちはその民を治め、また偉い人たちは、その民の上に権力をふるっている。あなたがたの間ではそうであってはならない。かえって、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。それは、人の子がきたのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためであるのと、ちょうど同じである。」(マタイ 20:25～28)

[キリストは] 他の人々に仕えられるためではなく、仕えるために来られた。このお方はご自分を喜ばせることなく、名声を得ることなく、僕のかたちをとって、善を行うことによって生涯を過ごされた。このお方は地上で安逸にまた豊かに過ごし、この世の楽しみをご自分のものとするもおできになった。しかしこのお方は楽しむために生きるのではなく、善を行い、他の人々を苦しみから救うために生きられた。そしてこのお方の模範はわたしたちが従うためにある。(教会への証 3 卷 54)

生きた神のしもべたちであると公言する人々は、兄弟たちよりも高められることではなくて、喜んですべての者のしもべとならなければならない。また、親切で礼儀正しい精神を持っていなければならない。もし誤りに陥ったならば、そのすべてを告白しなければならない。意図するところが正しかったからと言って、告白しなくてもよいという理由にはならない。告白は、使命者に対する教会の信頼を失わせるものではない。彼は、よい模範を示すのである。告白の精神が教会のなかで奨励されて、麗しい一致がもたらされるであろう。教師であると公言する人々は、敬神、柔和、謙遜の模範であって、親切な精神を持ち、人々をイエスと聖書の真理に導かなければならない。キリストの教役者は、その言葉と行為が清くなければならない。彼は、自分が靈感の言葉、聖なる神の言葉を扱っていることを、常に覚えていなければならない。彼はまた、自分には群れが委ねられていて、イエスが父の前でわれわれのためにとりなされるように、自分は彼らのことをイエスに訴えて、とりなさなければならないということを、覚えていなければならない。(初代文集 198)

[牧師は] 自分の責任を果たす方法に対して厳密に弁明を求められるようになる。もし彼らが神の律法の拘束力のある要求を民に教えず、御言を明確に説かず、自分自身の解釈で民の思いを混乱させるなら、彼らは自分自身は養っても、群れを養うことはなおざりにする牧者なのである。(SDA バイブル・コメント [E.G. ホルト・コメント] 4 卷 1164)

4月5日

## わき目をふらずに集中する

「長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。」(テモテ第一 4:14, 15)

キリストの牧師が彼らの働きにわずかしか成功しない理由は、彼らがその働きに私心なく献身しないからである。ある者の関心は分散しており、二心である。この世のわずらいに没頭し、牧師の働きがどれほど聖なるものであるかに気づかない。そのような者は暗闇や、大きな不信仰や、背信をつぶやくことであろう。その理由は、彼らが神との関係が正しくないからである。彼らはこのお方に完全にあますことなく献身する重要性を悟らない。彼らはわずかに神に仕えるが、自分自身にはもっと仕えており、祈りはするが、わずかである。

天の大能者は、地上の伝道に携わっておられた間、多く御父に祈られた。このお方はしばしば祈りのうちに夜を徹してこうべを垂れておられた。このお方の霊は、この世の闇の力を感じたときにしばしば悲しまれ、忙しい町や騒がしい群衆を離れて、ご自分のとりなしをなすために人目につかない場所を求められた。オリブ山が神の御子にとって祈祷のために好んで行かれる場所であった。群衆が夜の休息のためにご自分を離れた後、しばしばこのお方はその日の骨折りで疲れていても休息なさらなかった。ヨハネの福音書の中に「そして、人々はおのおの家に帰って行った。」「イエスはオリブ山に行かれた」と書かれている(ヨハネ 7:53,8:1)。町が静まり、弟子たちが眠りで元気を回復するために家に帰っていった間、イエスは眠ることをされなかった。弟子たちが世で日々直面する悪の感化力から守っていただけるように、またご自身の魂が来る日の義務と試練のために力づけられ元気づけていただけるようにと、このお方の聖なる嘆願がオリブ山から御父のもとへ上っていった。ご自分に従う者が眠っているあいだ、神なる教師は夜を徹して祈っておられた。祈りで頭を下げておられる髪に夜露と霜が降りた。その模範はこのお方に従う者のために残されている。(教会への証 2 巻 507、508)



## この召しの証拠

「もちろん、自分自身で事を定める力が自分にある、と言うのではない。わたしたちのこうした力は、神からきている。神はわたしたちに力を与えて、新しい契約に仕える者とされたのである。」(コリント第二 3:5,6)

罪人が悔い改めて、真理によつてきよめられることは、神が、牧師を伝道の仕事に召された最も強力な証拠である。彼の使徒職の証拠は、改心した人々の心に書かれ、彼らの新たな生活によつて、立証される。栄光の望みであられるキリストが、心の中に形づくられる。牧師は、彼の働きにこのような証印が押されて、大いに力づけられるのである。

今日、キリストの牧師たちは、パウロの働きに対してコリントの教会があかしたのと同様の証言を持たなければならない。しかし、この時代において、牧師の数は多いが、有能で、きよめられた牧師、すなわち、キリストの心に宿った愛に満たされた人々は、実に少ないのである。誇り、自己過信、世を愛する心、あらさがし、辛辣さ、ねたみなどが、キリストの宗教を表明する多くの者の結ぶ実である。その人々の生活は、救い主の生涯とは著しい対照をなして、しばしば、彼らが、どのような牧師の働きの下に改心したかという悲しいあかしを立てる。

人間にとって、福音の有能な牧師として神に受けいられること以上に大きな栄誉はない。しかし、主が、主の働きにおいて力と成功を与えて祝福される人々は、誇ったりしない。彼らは、自分たちが、主に全く依存していることを認め、自分たちの無力を自覚している。(患難から栄光へ下巻 6, 7)

自分が牧師になると神に召されていると感じる者が、もしへりくだってキリストに学ぶなら、真の説教者になる。もし祭壇からの燃えている炭が彼の唇に触れているなら彼はキリストを罪人の唯一の希望として掲げる。説教者の心が真理によつて聖化されているなら、彼の言葉は彼自身にとっても他の人々にとっても生きた現実となる。彼の言葉を聞く人々は、彼が神と共におり、熱烈な力ある祈りによつてこのお方に近くいたことを知る。聖霊が彼に下り、彼の魂は生き生きとした天来の火を感じているので、彼は霊の事柄を霊と比べることができる。サタンの砦を打ち倒す力が彼に与えられる。人々の心は彼の提示する神の愛によつて砕かれ、多くの者が「わたしは救われるために、何をすべきでしょうか」と尋ねる(使徒行伝 16:30)。(ビュー・アンド・ヘルド 1902年4月15日)

4月7日

## 紳士のしるし

「わたしはこう考える。神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。」(コリント第一 4:9)

キリスト教の初期のころ、……献身的な使命者たちは、自己称揚の思いから、キリストとその十字架を示す働きを台なしにするようなことはなかった。彼らは権威も、自己の卓越をも望まなかった。(患難から栄光へ上巻 225)

パウロはこの正式の按手の式を、彼の生涯の働きにおける、新しい重要な時期の始まりを示すものと見なした。彼はのちにこの時を、キリスト教会における使徒としての、自分の任務の始まりの日と定めている。(同上 176)

骨折り仕事で荒れた手をかざして、パウロはエペソの長老たちに訴える。「あなたがた自身が知っているとおおり、わたしのこの両手は、自分の生活のためにも、また一緒にいた人たちのためにも、働いてきたのだ」(使徒行伝 20:34)。その両手は際立つ印象深さをもってわたしたちに語りかける。パウロは神秘的なことを語っているのではない。彼は彼の生活態度を知っている彼らに訴えているのである。この偉大な使徒は働くことを恥とせず、恐れることもなく、この主題を少しも自分の伝道の働きより低めたりはしなかった。

人の意見が、多くの者の思いの中で、神のご命令を変えてきた。そして人は、手ずから働く人は、紳士の仲間に入るのにふさわしくないと考えるようになった。主のご目的は人の考えや目的とは違う。はじめに神は人を紳士に創造された。つまり、喜んで仕事をする人可以である人という意味である。人々は金銭を得るために一生懸命働き、富を得ると彼らの金銭が自分の息子を紳士にすると考える。しかしそのような多くの人々は、自分自身が訓練されたように、すなわち困難で有益な労働のために自分の息子を訓練しないのである。(レビュー・アンド・ハールド 1900年3月13日)

もし伝道者たちが、キリストのみわざにおいて、困難と窮乏に苦しんでいると感じるならば、心の中で、パウロが働いた働き場を想像してみるとよい。この神の選びを受けたパウロが天幕を作っていたとき、彼は、使徒としての働きによって当然受けるべきであった報酬のために働いていたのであった。(患難から栄光へ下巻 34)

## 誤解と中傷

「わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。」(コリント第一 4:10)

教会の清めのためになした使徒〔パウロ〕の努力に対してことごとく頑固に反対したごく少数のコリント人がいた。しかし彼らのとった行動は、だれ一人欺かれることがないようなものであった。彼らは最も苦々しい精神を表し、パウロに対して、金銭目当ての動機と、福音の宣布や教会の取り扱いにおける賢さを責め立ててはばからなかった。さまざまな好意的な目的のために兄弟から寄付された資金からパウロが個人的な利便を受け取っていると、彼を責めた。その一方で、ある者は彼の使徒職に対する主張を疑問視した。なぜなら彼は自分が起こした教会から生活費を要求しなかったからである。このように彼の反対者の告発は矛盾しており、いささかも根拠のないものであった。

ちょうどそのような道理をわきまえない人々、すなわち真理を信じると公言しながら、自分の身を神のみ働きの進展に反対する立場に置く人々と、今の時代も直面しなければならない。彼らは教会組織と調和することを拒み、彼らの働きの重荷は兄弟の品性を批判することであり、暗い疑惑を起こさせ、密かなほめかしを広めることである。……

使徒は諸教会の重荷ゆえの悩みに言及している。ときどき重圧があまりに大きいため、彼はほとんどそれに耐えることができなかった。外側の危険と内側の恐れが彼を悩まし、自分自身の力ではとても耐えきれなかった。偽りの教師らは兄弟たちに彼に対する偏見をいだかせた。彼らは、パウロが建ててきた諸教会内での彼の感化力をなくそうと、彼に対して偽りの告発をした。しかしそのすべての迫害と失望のただ中で、彼はキリストの内に見出した慰めのうちに喜ぶことができた。

彼は自分の信任に対して、不正直や不忠実の良心の呵責を感じることはなかった。彼にとって喜びの原因となったのは、自分が神の恵みにより、伝道の働きができたこと、人の称賛を受けるために生来の雄弁を用いるのではなく、神の御霊のうちに単純さと純潔さをもって、ただ魂の益だけを目的として働くことができたことであった。(パウロの生涯からのスケッチ 177～179)

4月9日

## 信仰の英雄の生涯

「今の今までわたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。」(コリント第一 4:11～13)

絶えざる反対の嵐、敵の怒号、友の離反の中で、勇敢な使徒〔パウロ〕もときにほとんど落胆してしまった。しかし彼はカルバリーを振り返り、新たな情熱をもって、十字架に掛かれたお方の知識を広めるために前進した。彼はキリストが自分の前に歩まれたその血のついた道を歩いていくだけであった。自分の驢い主の足許に自分の武具を脱ぐときまで、その闘争から放免されることを求めなかった。

使徒がその勞を解かれてから18世紀がたっているが、キリストのためになした彼の骨折りと犠牲の歴史は教会の最も尊い宝の一つである。その歴史は聖霊によって記録されたが、それは各時代のキリストに従う者が、それによって自分たちの主人であるお方のみ事業にもっと熱心にもっと忠実であるようにと励まされるためである。

この信仰の英雄は、いかに今日牧師の職務に群がっている自己放縱で安逸を愛する人々を抜きこんでいることであろう。人生の普通の困難や試練にさらされる時、多くの者は自分の運命が耐え難いと感じる。しかし彼らはキリストのみ事業のために何をし、苦しんだのであろうか。この偉大な使徒の記録と比べるとき、彼らの記録はどのように見えてくるであろうか。彼らは罪人の救いのために魂のどのような重荷を感じたのであろうか。彼らは自己否定、あるいは犠牲についてほとんど知らない。彼らは、自分たちが持っている品性のあらゆる卓越さ、また彼らが享受しているすべての祝福の故に、キリストの恵みに対して負債がある。彼らの状態、彼らの持ち物はすべてキリストの血で買われたものである。キリストの僕が反対や迫害に直面するとき、自分の信仰がかすんでくるのを、自分の勇気がなえてくるのを許してはならない。キリストを助け手として、彼らはあらゆる敵に抵抗し、あらゆる困難を克服することができる。使徒を不屈の骨折りへと駆り立てたその同じ義務が彼らの上に置かれている。彼の忠誠を見習う者だけが、彼と共に命の冠にあずかるのである。(パウロの生涯からのスケッチ 148、149)

## 牧師の生涯

「この務がそしりを招かないために、わたしたちはどんな事にも、人につまずきを与えないようにし、かえって、あらゆる場合に、神の僕として、自分を人々にあらわしている。すなわち、極度の忍苦にも、患難にも、危機にも、行き詰まりにも、むち打たれることにも、入獄にも、騒乱にも、労苦にも、徹夜にも、飢餓にも、真実と知識と寛容と、慈愛と聖霊と偽りのない愛と、真理の言葉と神の力により、左右に持っている義の武器により、ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。」(コリント第二 6:3～10)

神の目に、神の伝道者ほど尊いものはない。彼らは、地上の荒廃した所へ出て行って、真理の種をまき、収穫を待ち望むのである。神のしもべたちが、どんな心づかいをもって、迷った魂を求めるかは、キリストのほかにはわからない。キリストは、ご自身のみ霊を彼らにお与えになる。そして、彼らの努力によって、魂は、罪から義へと導かれるのである。

神は、農園や事業、また必要ならば家族を喜んで後に残し、神のための伝道者になる人々を召しておられる。そして、召しに答える人が必ずある。過去において、キリストの愛と失われた者の必要に心をゆり動かされて、家庭の慰めや友人の交わりを捨て、または、妻や子供たちの楽しみさえ捨てて、外国へ行き、偶像教徒や未開の人々のなかで、あわれみの使命を宣べ伝えた人々があつた。そういう努力の中で、多くの者は生命を失った。しかし、他の人々が、その働きを継続するために起こされた。こうして、キリストのみわざは、一步一步と前進し、悲しみのうちにまかれた種は豊かな実を結んだのである。神の知識は広く宣布され、十字架の旗は、異教の国々に立てられたのである。

伝道者は、ひとりの罪人の悔い改めのために、持てるすべてをつくさなければならぬ。……もしキリストが、一匹の失われた羊を捜すために、九十九匹を残して来られたとするならば、われわれの努力はそれ以下であつてよからうか。(患難から栄光へ下巻 51,52)

4月11日

## パウロの力強さの秘訣

「彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦勞したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。」(コリント第二 11:23 ~ 28)

パウロほど誠心で辛抱強く精力的な、イエス・キリストの弟子が、地上に存在したことはなかった。彼は、キリストを知る知識の絶大な価値のゆえに、一切のものを損と思つた。彼は自分の前に一つの目的を持っていた。そしてそれは自分の唇から滅びつつある魂に贖いの知らせが伝えられることであり、彼らが世の贖い主を知るように導かれることであった。彼の魂全体はイエスの内に、すべての光の源であるお方から受けた真理の光の中に包まれていた。(今日神と共に 296)

キリストが働かれたように働き、キリストが犠牲を払われたように犠牲を払うことを怠ることは、聖なる信賴の裏切りであり、神に対する侮辱ではなからうか。

眞の伝道者の心は、救霊の熱望に満ちあふれている。時間と精力を使いつくし、どんな勞苦もいとわない。なぜならば、彼自身の心にこのような喜びと平和と歎喜とをもたらした眞理を、他の人々に聞かせなければならぬからである。キリストの霊が彼の上に宿る。彼は、言い開きをしなければならない者として、魂を見張っている。彼は、カルバリーの十字架に目を注ぎ、高く挙げられた救い主を眺め、救い主の恵みにより頼む。そして、彼は、主が彼の盾、彼の力、彼の能力となつて、最後まで共におられることを信じて、神のために働くのである。彼は、神の愛の保証を織りまぜた招待と嘆願によって、人々をイエスに導こうとする。そして、彼は、天において、「召された、選ばれた、忠実な者」の中に数えられるのである(黙示録 17:14)。(患難から栄光へ下巻 52, 53)

## 単なる説教を越えた方法

「この奥義は、いまは、御霊によって彼の聖なる使徒たちと預言者たちとに啓示されている。……それは、異邦人が、福音によりキリスト・イエスにあつて、わたしたちと共に神の国をつぐ者となり、共に一つのからだとなり、共に約束にあずかる者となることである。わたしは、神の力がわたしに働いて、自分に与えられた神の恵みの賜物により、福音の僕とされたのである。」(エペソ 3:5 ~7)

もしだれかがこの〔伝道の〕働きに入るときに、なるべく自己犠牲を払う部分を選ばず、説教することで満足し、奉仕する働きは他の人がするために残しておくようであれば、彼は自分の働きが神に受け入れられると期待するには及ばない。キリストがそのために死なれた魂は、的を射た個人的な働きが欠けているために減んでいっている。そして、もしイエスがご自分のみ言葉の中でお教えになったように、すすんで人々のしもべになろうとしないならば、彼は自分の召しを誤ったのである。聖なる職務の奉仕をする者は、岩なるお方の上に落ちて砕かれるべきであるが、それは主が彼らにご自分のみ名を記し、彼らを尊い器にかたちづくって下さるためである。もし伝道の働きに携わる者が本当に神との協働者であるなら、わたしたちはキリストがそのために死なれた魂の救いのためにすべての国でなされた堅実で美しい働きを見るはずである。

神は快く自己を否定する献身した人々を召しておられる。天の知的存在者の働きはたゆまない熱心な働きであるが、それは彼らが人々をイエスに引き寄せようと専心しているからである。これが牧師が労すべき方法である。彼らのメッセージは「かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい」でなければならない(黙示録 22:17)。天使の奉仕の中で、彼らはどんな魂をも閉め出すためではなく、むしろ彼らをみな集め入れるために働く。しかし福音のメッセージがすべての人に伝えられるためには、人間が天使の働き人と協力しなければならぬ。神と人間は失われた魂を救うという偉大な働きを成し遂げるために結合しなければならぬ。人は神の助けがなければ自分自身の救いを果たすことはできない。そして神は快く断固とした協力がなければ彼をお救いになることはない。人間は教育されなければならぬ。彼らはこの大いなる働きに適した者とならなければならず、彼らの成長と教育は神の力と彼らの一致にかかっている。(教会への証 4 卷 185)

4月13日

## 良い働き

「『もし人が監督の職を望むなら、それは良い仕事を願うことである』とは正しい言葉である。」(テモテ第一 3:1)

福音伝道を軽視することがあってはならない。み言葉の伝道を下位の事柄だと思わせるような活動は何一つ行われるべきではない。そうなのではない。伝道を軽視する者はキリストを軽視しているのである。すべての働きの中で最高の働きは、さまざまな分野における伝道であり、福音伝道者の働き以上に神に祝福される働きはないということを、青年の前に示し続けなければならない。

わたしたちの若い人々が伝道に入るのを止めさせないようにしよう。熱烈な表現によって、ある者は神が歩むようにと命じておられる道からそれてしまう危険がある。ある者は伝道に入るために準備をしているはずだったが、医療の方面に進学するよう奨励されてきた。主はご自分のぶどう園で労するためにより多くの牧師を召しておられる。「開拓地を強化せよ。世界のあらゆる場所に忠実な歩哨を置け」とのみ言葉が語られた。青年たちよ、神はあなたがたを召しておられる。このお方は寛容で偏見のない、キリストと真理に深い愛を持っている青年の全軍を召しておられる。

能力や学問の程度は、あなたが働きに携わる精神に比べればはるかに重要性が低い。伝道が必要としているのは偉大な学問のある人々ではない。雄弁な説教者ではない。神はご自分の御霊に吹き込んでいただくために自分を捧げる人々を召しておられる。キリストと人類のみ事業は聖化され、自己犠牲の人々、すなわち陣営の外に出て、非難に耐えることのできる人々を必要としている。……

わたしたちの若者のうち何人が神の奉仕に入るのであろうか。奉仕されるのではなく奉仕するために。過去に、「主よ、この魂を救うためにわたしを助けてください」と言いつつ、自分の思いを一人の魂からまた次の魂へと集中させる人々がいた。しかし今はそのような例はまれである。どれほどの人が、自分の知っている危機に陥った魂を連れて、彼らを祈りのうちに神に差し出しながら、彼らをお救いくださいと嘆願することであろうか。(教会への証 6 巻 411～413)



## 用心が必要である

「監督は、非難のない人で」（テモテ第一 3:2）

〔テトス 1:5 - 7 参照〕。すべての牧師がこれらの言葉に聴き従うのは良いことである。しかるべき考慮と、神が是認なさる者を聖霊によって指名してくださいと多く祈ることなくして、人を急いで任務につかせるようなことはしないのが良い。

靈感を受けた使徒は「軽々しく人に手をおいてはならない」と言った（テモテ第一 5:22）。わたしたちのある教会では組織編成と長老の任命の働きが時機尚早である。聖書の規則が尊重されず、その結果、嘆かわしい問題が教会にもたらされてきた。指導者を選ぶのに性急になるあまり、責任のある働きにまったく適していない人々、すなわちどのような立場であれ神のみ事業に奉仕できる前に、まず改心し、高められ、高尚にされ、精錬される必要のある人々を按手するようなことがないようにすべきである。

福音の網は良いものも悪いものも共に集める。品性が発達するには時間がかかる。その人が実際にどういう人物であるかを知るために時間がなければならない。（教会への証 5 卷 617、618）

わたしたちは神の律法の保管者であると公言しており、地上に住む他のどの人々よりも大きな光を持ち高い標準をめざしていると主張している。それゆえわたしたちは品性のもっと卓越した完全さともっと熱心な献身を示さなければならない。（同上 619）

使徒の時代に神の牧師たちは、神のための代弁者という厳粛で聖なる立場をとる人々を選ぶか受け入れるにあたって自分自身の判断にあえて頼ろうとはしなかった。彼らは自分たちの判断が受け入れる人々を選び出し、それから主が彼らをご自分の代表者として出て行くためにお選びになるかどうかを知ろうとして、このお方の前に彼らを差し出した。今もこれに劣らず同様に言うべきである。

多くの場所でわたしたちは、教会の長老など責任ある地位につく資質がないのに、急いでそのような地位につけられてしまった人々に出会う。……

神の牧師は評判がよく、関心を目覚めさせた後それを思慮深く取り扱う能力がなければならない。わたしたちは、自分が代表しているみ事業に恥辱ではなく、誉れを帰す有能な人々を大いに必要としている。（同上 4 卷 406、407）

4月15日

## 資格喪失の実例

「イスラエルの長子ルベンの子らは次のとおりである。—ルベンは長子であったが父の床を汚したので、長子の権はイスラエルの子ヨセフの子らに与えられた。」(歴代志上 5:1)

「ルベンよ、あなたはわが長子、わが勢い、わが力のはじめ、威光のすぐれた者、権力のすぐれた者。」このように父〔ヤコブ〕は長子としてあるべきルベンの立場を描いた。しかしエダル〔創世記 35:21, 22〕における彼の嘆かわしい罪は彼を長子の相続権という祝福に値しない者とした。ヤコブは「しかし、沸き立つ水のようなから、もはや、すぐれた者ではあり得ない」と続けた(創世記 49:3,4)。

祭司職はレビ族に配分され、王国と救い主の約束はユダ族に、二倍の嗣業はヨセフに配分された。(人類のあけぼの上巻 264,265)

わたしたちはこの退廃した時代の罪を警戒しなければならない。キリストの大使らは、結婚していようがいまいが、婦人との軽薄な会話やなれなれしさにまでなり下がることのないようにしましょう。ふさわしい威厳をもって自分の立場を守ろう。けれども同時に、彼らはすべての人に対して社交的で親切で礼儀正しくあることができる。あらゆることから無作法やなれなれしさを匂わせることから超然としていなければならない。これは禁じられた領域であり、そこに足を置くことは安全ではない。一つ一つの言葉、一つ一つの行動が、高め、精錬し、高尚にする傾向をもつものでなければならない。そのような事柄について思慮がないとき、罪がある。……

わたしたちのまわりで、すでに十分この警告の必要を示すようなことが起こっているのではないだろうか。人間性の破船、打ち砕けた家族の祭壇、崩壊した家庭がいたるところに見られる。異常な原則の放棄があり、道徳の基準が低められ、地はすみやかにソドムになりつつある。洪水前の世界に神の審判をもたらし、ソドムが火で破壊される原因となった常習行為がすみやかに増し加わっている。わたしたちは終末、すなわち地が火で清められるべき時に近づいている。(福音宣伝者 125,126)

神は、いわゆる完全主義や精神主義と呼ばれる誤りに前に陥って、その心と判断力が弱くなった人々に、神の尊い群れを養うことをお委ねにはならない。(初代文集 196)

## 品性の問題

「さて、監督は……ひとりの妻の夫であり」(テモテ第一 3:2)

わたしたちの世界にキリスト教を推奨するのに最も大きな影響を及ぼすのは、よく秩序立てられよく躰けられた家族であることをわたしたちは考えまたそれに気づいているであろうか。世は彼らが神の御言を信じているかどうかを見ている。(説教と講和1巻77)

世に示すことのできるキリスト教の力の最も偉大なあかしは、秩序正しいりっぱにしつけられた家庭である。これは実際に心に働くキリスト教の力の生きたあかしであるから、他のどんなものよりもいちばんよく真理を推薦する。

家庭の宗教をためすいちばんよい試験は、家庭の感化によって形成される品性の型である。行動はどんな敬虔なことよりも大きく語る。(ドベンチスト・ホーム 24)

どのクリスチャン家族もクリスチャンの影響力の力と素晴らしさを世に例証しなければならない。

家族一人ひとりが思いやりのある礼儀正しいクリスチャンである家庭は善への広範にわたる感化力を及ぼす。他の家族はそのような家庭が得た結果に注目し、その実例に従い、こんどは彼らが自分の家庭を悪の感化力から守るようになる。天のみ使いらは神の御旨が統治する家庭をしばしば訪問する。そのような家庭は神の恵みの力のもとに、弱り疲れはてた旅人を元気づける場所となる。自己は我を張ることから守られ、正しい習慣が形づくられる。他人の権利を注意ぶかく認めるようになる。愛によって働き魂を清める信仰が家族の上にそびえ立ち、指揮権をにぎる。よく秩序立てられよくしつけられた一つの家族は、説くことのできるすべての説教よりも、キリスト教のために多くを語る。(今日のわたしの生涯 33)

あなたは、人がクリスチャンであるかどうか分かる。なぜなら行動は言葉や公言よりも声高に語るからである。行動を特徴づける精神はその人を表しており、そのわざはその人がかたどる型どおりとなる。神は救いの大いなる計画において、テストと試練によって、だれがキリストと結びついて立つかを、明らかにさる。わたしたちは自分の働きのあらゆる分野において改革者として行動すべきである。なぜならそのときキリストがわたしたちと共に働かれるからである。(原稿別ス1巻92)

4月17日

## 誇りに対して防御する

「監督は……自らを制し」(テモテ第一 3:2)

話のできる牧師にいつでもへつらい、称賛する人が大勢いる。若い牧師は、自分に損害を与える甘やかしと称賛を受ける危険が絶えずある。それでいながら同時に、神の代弁者であると公言する一人びとりに神が要求しておられる要素には不足しているかもしれないのである。……自己を見張り支配すること、またつねにイエスを際立たせ、自己を視野からなくすには、絶えざる熱心な油断の無い努力を要する。

あなたの品性の弱点を見張り、よくない傾向を抑え、適切に実践してこなかった気高い能力を強め、発達させることがあなたにとって必要である。世は、魂と神との間で密かに続いている働きも、また内なる精神の苦しみや自己嫌悪、自己を支配するための絶え間ない努力も知らないが、世の多くの者はそれらの努力の結果の真価を認めることはできる。……

「わたしに学びなさい。わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」と救い主は仰せになった(マタイ 11:29)。このお方は、知識を求めてご自分のところへ来る者をお教えになる。世には偽りの教師が多数いる。終わりの時には人々は「耳ざわりのよい話をしてもらおうとして、……教師たちを寄せ集め」と使徒は宣言する(テモテ第二 4:3)。なぜなら彼らは人当たりのよいことを聞きたいと願うからである。……「にせ預言者を警戒せよ。彼らは、羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、その内側は強欲なおおかみである。あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう」(マタイ 7:15,16)。ここで述べられている宗教上の教師の部類は、クリスチャンであると公言している。彼らは信心のかたちを持っており、魂の善のために労しているように見えるが、その一方で、強欲で利己的な安逸を愛する心があり、自分を捧げきっていない心の促すままに従っている。彼らはキリストとその教えに矛盾し、このお方の柔和とへりくだった精神に欠けているのである。

この時代のための聖なる真理を担う説教者は、これらすべてとは反対の者でなければならず、自分の実際的な信心の生活によって、偽物と本物の羊飼いとの間には存在する区別をはっきり示さなければならない。(教会への証 4巻 376,377)

## 慎み深さを培う

「さて監督は、……慎み深く」(テモテ第一 3:2)

キリストの学校で初級の学びをする必要のある人々が、真理の教師の資格で働いている。神の改心させる力が牧師の心に及ばなければならない。さもなければ、彼らは何か他の天職をさがすべきである。もしキリストの大使が人々に真理を示すことの厳粛さに気づくなら、彼らは慎み深く思慮深い者、神と共に働く者となることであろう。キリストがご自分の弟子にお与えになった任務について真に自覚するなら、敬神の念をもって神のみ言葉を聞き、主からの教えを求めて耳を傾け、自分たちが生ける者と死せる者の間に立つとき、自らの手でなした働きについて神に申し開きをしなければならないことを自覚することができるように、天からの知恵を求めることであろう。

イエスなくして牧師に何ができるのか。本当に何もできない。そうであれば、もし彼が軽薄で冗談を言う者であれば、彼は主に課された義務を果たす準備ができていないのである。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」と、キリストは仰せになる(ヨハネ 15:5)。彼の唇からこぼれる不真面目な逸話、笑いを引き起こすために語られる言葉はすべて神のみ言葉によって有罪と宣告されており、聖なる講壇にはまったく場違いである。……

牧師が改心しないかぎり、わたしたちの教会は病気になる、死ぬばかりになる。神のみ力だけが人間の心を変えることがおできになり、それをキリストの愛で満たすことができる。神のみ力だけが、情欲を正し抑制して、愛情を清めることができる。聖職者の務めを果たすすべての者は誇り高い自分の心をへりくだらせ、自分の意志を神のみ旨に従わせ、キリストと共に自分の命を神の内に隠さなければならない。

伝道の目的は何であろうか。おどけたことを宗教と混ぜることであろうか。劇場はそのようなものを見せる場所である。もしキリストが内に形づくられるなら、もし真理がその清める力と共に魂の内なる聖所に持ち込まれるなら、あなたがたには陽気な人々はおらず、ほろびゆく魂にキリストの尊い教訓を教えるために、気難しい、不機嫌な、不愉快にさせる人々もいない。(牧師への証 142,143)

4月19日

## 集中的な靈的生活

「さて、監督は……礼儀正しく」(テモテ第一 3:2)

主はご自分の牧師たちの前に聖なる基準を置き、彼らが神の群れの羊飼いであるべきこと、またよい態度の模範となること、非難されることのない、低い俗っぽい標準にさがることのない、生来の改心していない心の欲望に従って形づくられていない牧師であるべきことを、彼らにお教えになる。牧師は聖なる任務に自分の欠点のある精神と誤った品性を持ち込むべきではない。なぜなら、彼らはすべてのことにおいてみ言葉を成就し、「神の僕として」自分を人々にあらわしているところを見出されるべきだからである。(レビュー・アンド・ワールド 1894年11月20日)

牧会に怠け者のための場所はない。神の僕は自分の伝道を十分に吟味すべきである。彼らは怠け者とはならず、神のみ言葉の解説者として忠実であるために自分のエネルギーを最大限に発揮する。彼らは学ぶ者であることを決して止めてはならない。彼らは自分自身の魂を働きの神聖さと自分の召しの責任に対して敏感に保つべきである。それは彼らがいついかなる場合にも、傷のある犠牲、すなわち研究も祈りもしなかったような捧げ物を神のもとに携えてくるのが決してないためである。主は、集中的な靈的生活の人を必要としておられる。(教会への証 6巻 412)

なされるべき働きは一步ごとに自己犠牲を命じるが、前進しなさい。苦しい状況の下で正しい精神と変わらない態度を表す働き人は、自分の働きへの適応性を証明している。……

魂がその罪のために滅んでいると知っているがゆえに、すべての働き人が目覚めて、より大きな熱意をもって自分の範疇(はんちゆう)にいるすべての人に現代の真理の光を伝えるべきである。一人の魂が改心するときはいつでも神に栄光が帰せられ、天の御使らの讚美がどっとわき起こることを、彼は決して忘れてはならない。

働きに成功したい人はみな、神と共に長くともどまらなければならない。一人のランカシャー州の老婦人の話がある。彼女は隣人たちが自分の牧師の成功の理由をあげているのを聞いていた。彼らは彼の賜物や、説教のしかた、あるいは物腰について話していた。「いいえ」とその老婦人は言った。「みなさんにそれが何であるか申し上げます。みなさんの牧師は全能者と非常に親密なのですよ。」(レビュー・アンド・ワールド 1901年9月2日)

## もてなし

「さて、監督は……旅人をもてなし」(テモテ第一 3:2)

総じて、社交性があまりにも乏しく、当惑や仰々しきなしに家族の食卓にもう2、3人のための場所をつくる気持ちがありません。ある者は「あまりに大変だ」と訴える。もしあなたが「何も特別なものは用意していませんが、あるものでよろしければどうぞ歓迎します」と言うならば、大変ではない。予定していなかった客にとって、歓迎は最も手の込んだ準備よりもはるかにありがたいものである。

主に属する正当な時間を訪問客のための準備に使うことはキリストを否定することである。こうすることによって、わたしたちは神から盗む罪を犯すことになる。また他の人にも悪をなすことになる。手の込んだもてなしを準備することで、多くの者は自分の家族に必要であった配慮をせず、彼らの実例によって他の人々も同じ行動を取るように導かれる。

不必要な気苦労や重荷は訪問客をもてなすことで見せびらかしをしたいという願いから生じる。食卓にさまざまなものを準備するために、主婦は働きすぎる。多くの皿が準備されたために客は食べすぎ、一方では働きすぎから、もう一方では食べすぎから、結果として病気と苦しみが起きる。これらの手の込んだ御馳走は重荷であり害がある。

しかし主はわたしたちが自分の兄弟姉妹の益のために心を配るよう意図しておられる。(教会への証 6 巻 343)

牧師がた、聖書の教訓を与えることにあなたの働きを限定してはならない。実際の働きをしなさい。病人が健康を回復するよう努めなさい。これが真の伝道である。(ノトブック・リフレット 1 巻 140)

この世におけるわたしたちの働きは、他の人々の益のために生き、他の人々を祝福し、親切にもてなすことである。そしてしばしば、ほんのわずかな不便だけで、わたしたちの心遣いとわたしたちの社会や家庭の恩恵を本当に必要としている人々をもてなすことができる。ある人々はこれらの必要な重荷を避ける。しかしそれらはだれかが負わなければならない。そして全般的に兄弟たちがもてなしを好まず、このクリスチャンの義務を平等に分かちあわないため、自発的な心を持っている少数の人々、すなわち喜んで助けを必要としている人々を自分自身のことのように考える人々が重荷を負うことになる。教会はこの方面で牧師の必要以上の重荷を軽減するために、特別の配慮をしなければならない。(教会への証 2 巻 645)

4月21日

## 教える働き

「さて、監督は……よく教えることができ」(テモテ第一 3:2)

この分野に入る者は聖書において初心者すぎない。彼らは他の事柄においても役に立たず、無能である。彼らは聖書を口ごもりながら、読み間違えながら読み、神のみ言葉が損なわれるような方法でそのみ言葉をごちゃまぜにする。適切な方法で真理を提供する資質のない者は、自分の義務に関して途方にくれる必要はない。彼らの場所は学ぶ者の場所であり、教師の場所ではない。伝道のために準備をしたいと願う青年は、わたしたちの大学に出席することで大いに益を受けるが、彼らが是認される話し手となるにふさわしい資格を得るためには、さらに利点が必要である。発声器官を疲れさせることなく話すよう、青年を教育するために、教師を雇わなければならない。物腰にも注意を払わなければならない。

その分野に入る青年たちのある者は、自分自身が訓練を受けてきていないので他の者に真理を教えることで成功しない。正しく読むことのできない者は学ぶべきであり、また公衆の前に立つことを試みる前に、教えるのにふさわしい者とならなければならない。……

牧師はとくに、今の時代のための真理について知的な理解をもっているかどうかを調べるために、吟味をされなければならない。それによって彼らが預言や実際的な主題について、つながりをもった説教をすることができるためである。もし彼らが聖書の主題をはっきりと提示できないなら、まだ聞き手、学ぶ者である必要がある。彼らは、他の人々に聖書の真理を教える教師となるために、聖書を熱心にかつ祈りをもって学び、聖書に精通しなければならない。人を急いで働きの分野に送り出す前に、これらのことをすべて注意深く、祈りをもってよく考えなければならない。(教会への証 4 巻 405 ~ 407)

説教することがもつと少なく、教えること、すなわち人々を教え、また青年に働きが成功する方法を教えることがもつと多くなければならない。牧師は聖書を研究する方法を他の人々に教えることにおいて有能になり、神のみ事業における働き人になりたいと願う人々の思いと態度を訓練することに有能にならなければならない。(福音宣伝者 76)



## 節制の模範を残す

「監督たる者は……酒を好まず、……正しく、信仰深く、自制する者であり」(テトス 1:7, 8)

福音の牧師は最も厳粛な働きに携わっている。彼らは食欲の点において、自分の体力と精神力を損なう働きをする物はなんであっても食することを拒み、自己を否定するよう奨励されるべきである。体力があり、神のみ働きを推進するにあたって、それをこのお方の名誉のために用いることができるのは、彼らの特権である。人が福音を説教するという事実が、彼に自分の健康を危険にさらすような利己的な習慣にふけてもよいという許可を与えることはない。牧師は教会員の前に節制の模範を残さなければならない。彼らは最大限の善をなすことができるために、体力と精神力を最高の状態に保たなければならない。(原稿別冊6巻37)

わたしたちには健康改革の光があり、主はその光を実行するようわたしたちにお命じになる。神は人の不健康で利己的な行為を無効にするために日々奇跡を行われることはない。……わたしたちの牧師は自分たちの体とそれをいかに取り扱うかに関して、ますます理性的にならなくてはならない。(同上 20巻248)

すべての者に、とりわけ真理を教える牧師には食欲の点を克服するという厳粛な責任がある。彼らの有用性は、もし彼らが自分の食欲と情欲を支配するならば大いに増すはずである。またもし、彼らが頭脳労働と肉体労働を組み合わせるなら、彼らの精神力と道徳力はずっと強くなるはずである。厳密な節制を習慣とし、頭脳労働と肉体労働を組み合わせるならば、彼らははるかにより多くの働きを成し遂げながら、なお頭脳の明晰さを保つことができるはずである。もし彼らがそのような道をとるなら、彼らの思想と言葉はずっと自由に流れ、彼らの宗教活動はずっと活力にあふれ、聴衆への感化力ははるかに顕著なものとなるのである。(教会への証 3巻486, 487)

魂の運命は〔牧師が〕とる道と、彼らのなす決心しだいである。そうであれば、体力が衰えることなく自分たちの聖なる召しに捧げられるように、万事につけ、すなわち食することだけでなく働きにおいても節制しなければならないことが、どれほど大切であろうか。(同上 1巻471)

4月23日

## 穏やかに冷静に

「監督たる者は、軽々しく怒らず……乱暴でなく」(テトス 1:7)

牧師が、自分の会衆の前で、反対者の顔に不信の冷笑を見るとき、見ない者のようにになりなさい。だれかが非常に無礼で笑ったりあざけったりするとき、牧師は声にも態度にも同じ精神を表さないようにしよう。あなたはそのような武器を使わないことを示しなさい。……

聖霊は、鋭く批判的であるのを好む人々と共に働くことはなさらない。その精神は集会で論争する人が抱いてきた精神であり、ある者は論戦にふさわしい習慣を形成してきた。このことで神は辱められる。鋭い攻撃を抑え、サタンの学校で戦闘の方法を学ばないようにしなさい。聖霊は非難の言葉を吹き込むことはなさらない。悩みの時がわたしたちの前にあり、真理の光を持っていなかったすべての正直な魂は、そのときにキリストの側に立つ。真理を信じる者は日々新しく改心すべきである。そのとき彼らは尊い器となる。(特別の証 A シリーズ 4 巻 23)

活動と熱心さの結びついた静かな熟慮、考慮と献身、良心と信仰の牧師が、今の時代に求められている。二つの資質、すなわち考慮と献身、活動と熱心さが共に進まなければならない。

論争する牧師はわたしたちの中で最も信頼できない。なぜなら働きの難局において、彼らは頼りにならないからである。彼らをほとんど関心のない所へ連れて行きなさい。そうすれば彼らは勇気と熱心と真の関心に欠けていることを表す。彼らは、酔っ払いが自分のわずかな酒に頼るように、論争や反対によって生じた興奮によって燃え上がり、活気づけられることに大いに頼っている。このような牧師は新たに改心する必要がある。(教会への証 3 巻 217)

現代の真理を説教している牧師たちは、改革の指導者とは対照的であることがわたしに示された。特にルターの献身した熱烈な生涯が、わたしたちの説教者の幾人かの生涯と比べられた。ルターはその勇気、静かな堅固さ、克己によって真理のための止むことのない愛を証明した。彼は真理を擁護して立っているときに、試練と犠牲に遭い、ときに最も深い苦悩に苦しんだが、つぶやかなかった。彼は獲物の野生動物のように狩り立てられたが、彼はキリストのためにすべてを喜んで耐えた。(同上 1 巻 375)

## 賃金は優先事項ではない

「さて、監督は……金に淡泊で」(テモテ第一 3:2、3)

牧師は正義のために立つ勇気がないことがよくある。神が酒の販売について言われていることを教会の人々に告げない。率直に言うこと聴衆の気持を害し、自分の人気を失墜し、月給を失うからである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 312)

〔わたしたちの牧師〕が金持ちになろうとするのは神のみ旨ではない。彼らは世間的な事業に携わるべきではない。なぜならそれによって、彼らが霊的な事柄に自分の最高の力を捧げるのに不適格な者となるからである。しかし彼らは本人とその家族を支えるのに十分な給料を受け取るべきである。彼らは自分の家庭内の教会にしかるべき注意を払うことができないほど多くの重荷を負うべきではない。なぜなら主のために子供たちを訓練することは彼らの特別の義務だからである。(福音宣伝者 271)

牧師を絶えず実務方面の働きにつかせ、あちこち場所を移動し、実行委員会や理事会に夜遅くまで出席させるのは大きな間違いである。これは彼を疲れさせ落胆させる。牧師は神のみ言葉から命のパンという豊かな栄養を得るために、休息する時間が必要である。彼らは生ける水の流れから、元気づける慰めの水を一飲みする時間がなければならない。(教会への証 7巻 250)

たとえ特別の能力と資質を持っていても、だれも法外な給料を与えられるべきではない。神とこのお方のみ事業のためになされた働きは、報酬目当ての基盤の上にすえられるべきではない。……

自分の最高限度にまで働きつつ、主のぶどう畑で全身全霊を込めて労する人々は、自分自身の奉仕に最高の評価をする者ではない。自尊心、うぬぼれ、時給を正確に計算して得意になる代わりに、彼らは自分の努力を救い主の働きと比較して、自分が役に立たない僕であると考えろ。

兄弟方、あなたは最低の標準に達するためにどれほど少なく行動することができるかを研究してはならない。そうではなく、あなたがこのお方のために多くのことをなすことができるように、キリストの満ち満ちたものを掴むために目を覚ましなさい。(同上 208, 209)

4月25日

## 反対者への忍耐

「さて、監督は、……寛容であって、人と争わず」(テモテ第一 3:2,3)

真理を教える神のしもべたちは、判断力をもった人々でなければならない。彼らは、反対に会ってもそれに耐えて、興奮しない人々でなければならない。なぜなら、真理の反対者たちは、真理を教える人々を攻撃する。そして、持ち出し得るあらゆる反対は、真理に対して、最悪の形で投げかけられてくるからである。メッセージをになう神のしもべたちは、真理の光によって、冷静と柔和な態度で、こうした反対を除去する準備がなければならない。しばしば、反対者たちは、神の使者たちに、挑発的な口調で語り、同様な性質を彼らにも起こさせようとする。そして、彼らは、できるだけそれを利用して、戒めの教師たちはうわざどおりに苦い精神をもった無情な人々であると、他の人々に言うのである。わたしは、反対には、忍耐、判断、柔和をもって答える準備がなければならないことを見た。反対にはそれ相当の重要性があることを認めて、はっきりした断言によって、それらを棄て去ったり片づけたりして反対者をやりこめ、彼に対して苛酷な精神をあらわすのではなく、その反対の重要性を認めた上で、真理の光と力とを示し、その方が優れていることを悟らせて、誤りを除去しようではないか。このようにして、よい印象が与えられる。(初代文集 197)

誤りに陥っている者を皆キリストの優しさをもって取り扱おう。あなたの労している人々が、もし真理を速やかにつかまなくても、非難をしたり、批判したり、責めたりしてはならない。あなたはキリストの柔和と優しさと愛のうちに、このお方を代表すべきであることを覚えていなさい。わたしたちは不信仰と反対に会うことを予想しなければならない。真理は常にこれらの要素に会わねばならなかったのである。しかしあなたが最も苦い反対に会わねばならなくても、あなたの相手を公然と非難してはならない。彼らは、パウロがしたように、自分は神の奉仕を行っていると考えているかも知れないので、そのような者に対してわたしたちは忍耐、柔和、辛抱強さを表さなければならない。

人気のない真理を提示するにあたって、自分たちが重い試練をしのび、厳しい争闘に耐えていると思わないようにしよう。イエスのこと、またこのお方があなたのために何を忍ばれたかを考えて、沈黙しなさい。たとえののしられ、偽って告発されても、不満をもらしてはならない。一言もつぶやいてはならない。非難や不満があなたの思いに入るのを許してはならない。(教会への証 6 卷 120)

## 健全な家族管理

「さて、監督は……自分の家をよく治め、……子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。自分の家を治めることも心得ていない人が、どうして神の教会を預かることができようか。」(テモテ第一 3:2、4、5)

職務につくよう推薦された人の家族は考慮されるべきである。彼らは従っているであろうか。その人は敬意をもって自分の家を立派に治めているであろうか。彼の子供たちはどのような品性であろうか。彼らは父親の感化力を尊重しているであろうか。もし彼に自分の家族を管理するにあたって、家庭で機転、知恵、信心の力が彼にないなら、同じ欠陥が教会に持ち込まれ、同じ聖化されていない管理がそこに見られるのは間違いない。その人が職務についてからよりも、つく前に批評する方がはるかによい。誤った措置の結果を正すために労するよりも、決定的な手段をとる前に祈りと評議をする方がよい。(教会への証 5 巻 618)

もし人が自分の家庭にある教会の管理で知恵を示さないなら、彼はどうやって外部のもっと大きい教会の管理に知恵を示すことができるであろうか。もし彼が自分の子供を治めることができずなら、どうやって非常に多くのことを含む責任を担うことができるであろうか。このことで賢い識別がなされていない。子供の教育と訓練を怠る牧師の上に、神の祝福は宿らない。彼は聖なる信頼を受けているので、自分の家庭の管理において、どのような場合でも欠陥のある模範を教会員の前に示してはならない。(原稿別ス 5 巻 449、450)

牧師の子供はある場合には世界で最もおそろかにされている子供である。なぜなら父親がほとんど彼らと共にいないことと、自分の仕事と楽しみを彼ら自身が選ぶがままに放っておかれているからである。もし牧師の家族に男の子がいるなら、牧師はその子を全面的に母親の世話に任せたまにはしてはならない。それは彼女にとって重すぎる重荷である。彼みずから息子の仲間、友人となるべきである。彼は息子たちを悪い仲間から守るために尽力し、彼らになすべき有益な仕事があることを確かめるべきである。克己を実践するのは母親にとって困難なことがある。それがわかったら、夫は自らもっと重荷を引き受け、自分の息子たちを神に導くために全力を尽くすべきである。(福音宣伝者 206)。

4月27日

## 謙遜な、信頼のおける、模範たる者

「さて、監督は……信者になって間もないものであつてはならない。そうであると、高慢になって、悪魔と同じ審判を受けるかも知れない。さらにまた、教会外の人々にもよく思われている人でなければならない。そうでないと、そしりを受け、悪魔のわなにかかるであろう。(テモテ第一 3:2、6、7)

神が自分に他人に真理を教える重責を負わせられたと主張する人々が起こるであろう。そのような人はみな検証され、試されねばならない。彼らをあらゆる責任から解放してもいけないし、ただちに責任ある地位に引き上げてもらえない。そうではなく、彼らが牧会にふさわしいか十分に立証するために、励ましを受けるに値するなら、励ましを受けるべきである。そのような人々にとって、他の人々の働きに従事するために進路を取ることは最善の道ではない。まず経験と知恵のある者に一緒について、働かせなさい。そうすれば、彼らが救いとなる感化力を発揮する能力があるかないかが、彼にまもなくわかる。(教会への証 1 巻 473、474)

み事業での働きに自分を捧げる人々の場合の調査検討は完全でなければならない。「軽々しく人に手をおいてはならない」と使徒はあなたに警告している(テモテ第一 5:22)。もし生活が神に受け入れられるようなものでなければ、その働きに価値はない。しかし、もしキリストが信仰によって心に内住しておられるなら、あらゆる悪は正しくされ、キリストの兵士である人々はよく秩序だった生活により、自らそれを立証するのである。牧会に入り、その感化力が教会の道徳を低下させる者が多くいる。そして彼らは拒まれると、その解職を個人的な不正だと受け取るのである。彼らには永遠の命へと湧き上がる水の源としてのキリストが、魂の中におられない。……

わたしたちは、喜んで新しい伝道地に入っていく、主のために熱心な奉仕をする人々を欲している。(ビュー・アンド・ハルド 1889年10月8日)

パウロはテモテが、牧師の働きの尊さを理解し、前途の苦難や迫害にも動揺せず、よろこんで指導を受ける人だと見ていた。それでもなおパウロは、まずテモテの性格や過去の生活が、十分満足すべきものだということがわかるまでは、この未経験な若者に福音伝道の訓練を与える責任を負うことはあえてしなかった。(患難から栄光へ上巻 218)

## 神の管理職

「監督たる者は、神に仕える者として、……わがままでなく」(テトス 1:7)

牧師たちが、改心前の行動方針や品性と共に、わたしに示された。最もかたくなで手に負えない者、最も断固として、最も頑固な者—しかし、これらの品性の特質は一つ一つみな神のみ働きに必要とされているものであった。わたしたちはそれを消滅させたくはない。神のみ事業で重要な信任の地位につくためにはそれが必要とされている。品性の変化がなくてはならない。パン種が人の心の中で働き、すべての行動が神のみ旨に一致するようになり、彼らが聖化されるに至らなければならない。そのとき、彼らは最も価値ある者となる。(原稿リ-ス9巻61)

[エゼキエル 33:7-9 引用]。預言者の言葉は、神の教会の保護者、神の奥義の管理者として任命された者の厳粛な責任を宣言している。彼らは、シオンの城壁の上に見張りびととして立ち、敵の接近に対して警報を発ししなければならない。人々は、誘惑に負けそうになっている。そして、もし神の伝道者たちが、彼らの任務を忠実に果たさないならば、人々は滅びてしまうのである。もし何かの理由で、彼らの霊的感覚が麻痺して、危険を認めることができず、警告を発しないために、人々が滅びるならば、神は、失われた人々の血の責任を、彼らの手にお求めになる。

シオンの城壁の上で見守る者は、神と親しく交わり、聖霊の印象に敏感になる特権が与えられている。神は、彼らを用いて、人々に危険を告げ、安全な場所に導かれる。彼らは忠実に、罪の確かな結果について人々に警告を与え、忠実に教会の利益を保護しなければならない。彼らは、どんな時にも、警戒をゆるめてはならない。彼らの働きは、人間のすべての能力を活用しなければならない働きである。彼らは、ラッパの音のように彼らの声をあげ、不安定な震える音は、絶対に出してはならない。彼らは、賃銀のために働くのではなく、そうしなければならないからであり、福音を宣べ伝えなければわざわいであると感じるからである。(患難から栄光へ下巻 42,43)

4月29日

## 魂を悩ませて祈る

「主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、『主よ、あなたの民をゆるし、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑い草にさせないてください。どうしてもろもろの国民に、「彼らの神はどこにいるのか」と言わせてよいでしょうか』。その時主は自分の地のために、ねたみを起し、その民をあわれまれました。」(ヨエル 2:17,18)

わたしたちの牧師は、品性の変化を必要としている。彼らほもし自分たちの働きの神にあつてなされないならば、すなわちもし彼らが自分自身の不完全な努力にまかされるなら、彼らはすべての人の中で最もみじめな者だと感じるべきである。キリストは、まだ品性の完全に到達していなくても、この上なく熱心にキリストのようになろうと求めるすべての牧師と共におられる。そのような牧師は祈る。彼は廊と祭壇との間で泣き、魂を悩ませて主が自分と共にいて下さるようにと叫び求める。さもなければ、彼は全天が見ている中、御使が自分の言葉や彼の態度や彼の精神を書きとめている中で、民の前に立つことができないのである。

ああ、人々が主を畏れるならば!ああ、彼らが主を愛するならば!ああ、神の使命者たちが滅びゆく魂に重荷を感じるならば!そのとき、彼らは単に演説をするのではなく、自分たちの魂に命を与える神の力を持つようになり、彼らの心は神の愛の炎に明々と燃える。弱さを捨てて強くなる。なぜなら、彼らはみ言葉を行なう者となるからである。彼らはイエスの『見よ、わたしは……いつもあなたがたと共にいるのである』とのみ声を聞く(マタイ 28:20)。……ちょうど話者が聖なるご臨在を感謝し、神の力を尊び信頼するのに比例して、彼は神の共に働く者と認められる。まさにこれに比例して、彼は神を通して強くなるのである。

高めて引き上げる力、すなわち神と真理の知識における絶えざる成長が、魂の救いを求めている者の側になければならない。もし牧師が神の生ける託宣から引きだした言葉を口にするなら、もし彼が自分のお仕えるキリストの協力を信じ期待するなら、もし彼が自己を隠し世の贖い主イエスを高めるなら、彼の言葉は自分の聴衆の心に届き、彼の働きは聖なる信任状を帯びるのである。(牧師への証 143,144)



4月30日

## きよめられた牧会の最終的な働き

「〔主は〕銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」(マラキ 3:3)

神はご自分の働きに秩序をもっておられる。牧会には不忠実な人々がいる。しかしそれだからといって、牧会が偉大な働きをするための主の手段になることはいささかも変わらない。なされた働きがなすべき働きのように見えないからといって、牧会を告発し、けなす人々は賢人ではない。

神の律法以外の何かに従うことによって、また福音が課している働き以外の働きをすることによって神を喜ばせていると思う者は、神を侮っているのである。彼らはイスラエルの聖者を侮辱している。警告に次ぐ警告が与えられてきた。世に与えられるべき最後のあわれみのメッセージのうちに嘆願に次ぐ嘆願がなされてきた。どうしてもあきらめることができずに、望みをいだいて、悲しみながら望みを抱いて、キリストは最後に心の戸のところであたいておられる。男女に最後のテストが与えられる。最悪の罪人らも憐れみのメッセージを聞くのである。神はだれがご自分の印もしくはしるしを受けるか試しておられる。(クルス・コレクション 153)

わたしはわたしたちの牧師に、清めと聖化の働きが、あなた自身の個人的な魂のうちで進められるように気をつけなさい、と言うように命じられた。あなたの第一の思想が、自分の召しと選びを確かなものとするものでなければならない。あなたの模範は親切と励ましに満ちたものでなければならない。傲慢な精神が入って来るようなことがあってはならない。かえって、心がキリストの優しさと愛と同情で満たされるようにしなさい。日々、真理を信じることによって霊の聖化のために働きなさい。すべての者は、自分たちが信心の奥義を理解していることを表すために神に選ばれていることを自覚しなさい。

民として、わたしたちは自分の生来の習慣や願望から清められるべきである。わたしたちの心が変わらなければならない。さもなければわたしたちは主イエス、すなわちわたしたちのために命を与えて下さったお方を正しく代表することができない。神の御子は、人類が完全な信仰を働かせることによって神性をつかめるように、ご自分の身に人性を取られた。キリストは完全な品性の発達のためのわたしたちの模範であられる。このお方から受ける力を通して、わたしたちは勝利者となることができる。(レビュー・アンド・ワールド 1909年2月18日)



を選んだと記されています。彼は、「羊を飼う者」—最初の羊飼い—になりました。そして想像するに、最初の小っちゃな小羊を愛情ぶかく世話したことでしょ。

二人とも、神様のことについて教えられていました。寝るときに話してくれるエバの物語はおそらくほとんどエデンとそこでおこったすべてのことについてだったことでしょう。なぜなら、そのすばらしい園での栄光にかがやく日々は、彼女の最もとうい思い出だったのですから。ですから、これらの二人の男の子は、彼女の他のすべての子どもたちと同じように、愛する創造主について学び、悪魔のたくみな誘惑について、どのようにそれに屈してしまったか、またその後起こった悲しい出来事についてみな学びました。エバのすべての物語の中でもっとも愛された話は、いつの日か彼女の子どもの中から一人がへびのかしらをくだき、家族をエデンの家にもちびき返してくれるという神のみ約束でした。すべての子どもは、自分がその英雄ではないかと希望したにちがいありません。

子どもたちはまた神にこのお方への愛と敬意、また自分たちを助けて下さるというこのお方の約束を信じる信仰を示すために、捧げ物をささげるべきことも学んでいました。くりかえし罪は非常に憎むべきであるため、ただ死によってのみ一血を流すことによってのみ一清めることができることが教えられました。

「日がたって、カインは地の産物を持ってきて、主に供え物とした。アベルもまた、その群れのういごと肥えたものを持ってきた。主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかった」。

神がアベルの供え物をどのように「顧みられた」かは、聖書に述べられていません。おそらく火が天からアベルの死んだ小さな小羊の上に向かって、焼きつくしたのかもしれない。とにかく何が違ったということです。カインの果物やナッツ、野菜の供え物は受け入れられませんでした。

なぜ、神さまはこの区別をなさったのでしょうか。なぜこのお方はある人の供え物はかえりみて、他の人の供え物はかえりみなかったのでしょうか。

## ねぎだれキャベツ

### ■材料

キャベツ	1/2 個
長ネギ	1/2 本
ごま油	大さじ 1
ごま	適量

(調味料)

粗糖	小さじ 1
塩	小さじ 1/3
昆布顆粒だし	小さじ 1/2
レモン汁	大さじ 2
すりしょうが	少々

### ■作り方

1. キャベツを一口大に切ります。
2. 長ネギをみじん切りにします。
3. 長ネギに調味料を加えて混ぜ、ねぎだれを作ります。
4. フライパンにキャベツを入れて、水を少々(分量外) 入れて弱火で蒸し焼きにし、水気を切ります。
5. キャベツにねぎだれ、ごま油、ごまを加えて、あえます。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

- 福音の宝
- 聖所真理

お申込先 : [sdarm.shomaru@gmail.com](mailto:sdarm.shomaru@gmail.com)



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## 聖書物語

## パート2 第14話

## 最初のけんか(1)

二番目の小さな男の子、聖書の中に名前が書いてある子はアベルでした。彼はカインの後ほどなくして生まれました。なぜなら、彼らは一緒に成長したからです。

彼らはいっしょに森で遊び、小川で水をかいていたにちがいません。もしかしたら、ボートを作って近くの池にうかべた最初の男の子たちだったかもしれません。

世界がまだできたばかりで、とてもとても美しかった遠い昔、それはなんとすばらしい時だったことでしょう！

おそらく、これらの二人の男の子たちは、増え続ける大家族のリーダーだったことでしょう。弟や妹たちは彼らを見上げて、彼らの模範に従ったので、彼らの名前は記録されているのに、他の人の名はだれも記されていないのも不思議ではありません。彼らがリーダーだったので、彼らの生き方やふるまい方が非常に重要だったのです。

時がたち、男の子たちは大人へ成長し、彼らの関心は別の方向へ向かい

ました。カインは物を育てるのが好きでした。聖書は、彼が「土を耕す者」であったと述べています。おそらくは彼が最初のスキを発明したのかもしれませんが。そして彼が種を集めて、種をまき、それらが強くじょうぶな美しい植物へ成長するのを見るのは、なんとわくわくすることだったことでしょう。

アベルは、動物を扱う仕事



(67 ページに続く)